

向原町の現況整理について

2022年9月2日

安芸高田市 企画部 政策企画課

1. 向原町の現況

- 人口の推移 2頁
- 土地利用状況 6頁
- 公共交通体系 8頁
- 産業 13頁
- 都市施設 16頁
- 防災 21頁
- 都市構造の評価 23頁
- まとめ 33頁

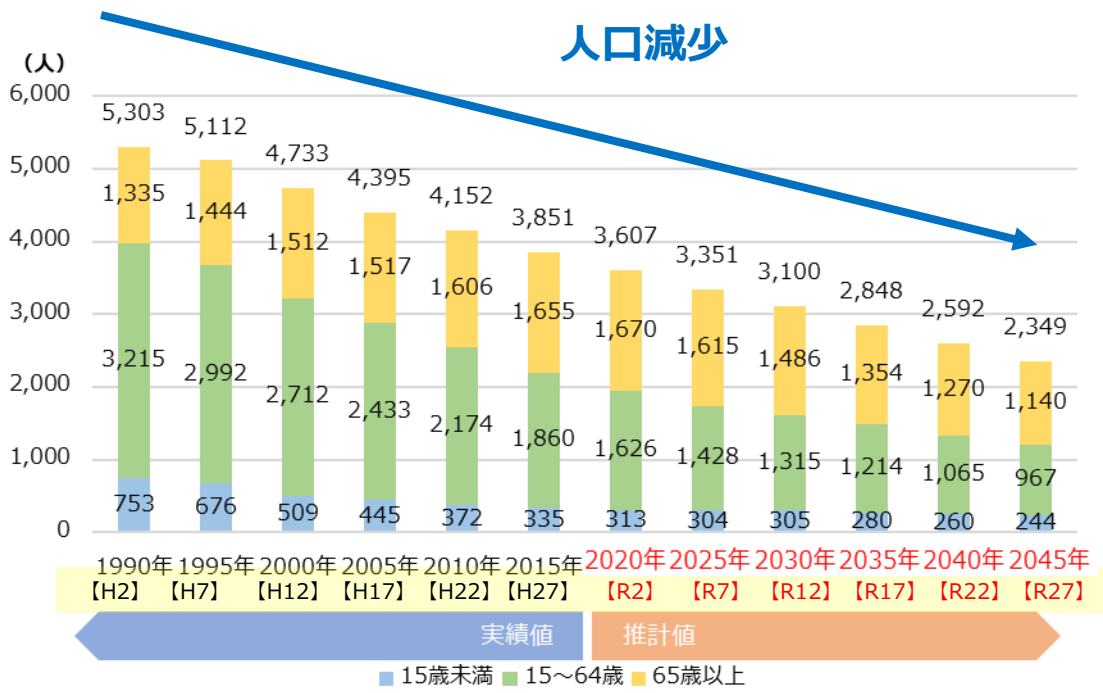
2. 市民アンケート調査

- 調査概要 34頁
- 調査結果①：回答者の属性 35頁
- 調査結果②：日常生活について 39頁
- 調査結果③：お住まいについて 45頁
- 調査結果④：これからのまちづくりについて 47頁
- まとめ 49頁

1. 向原町の現況（人口の推移）

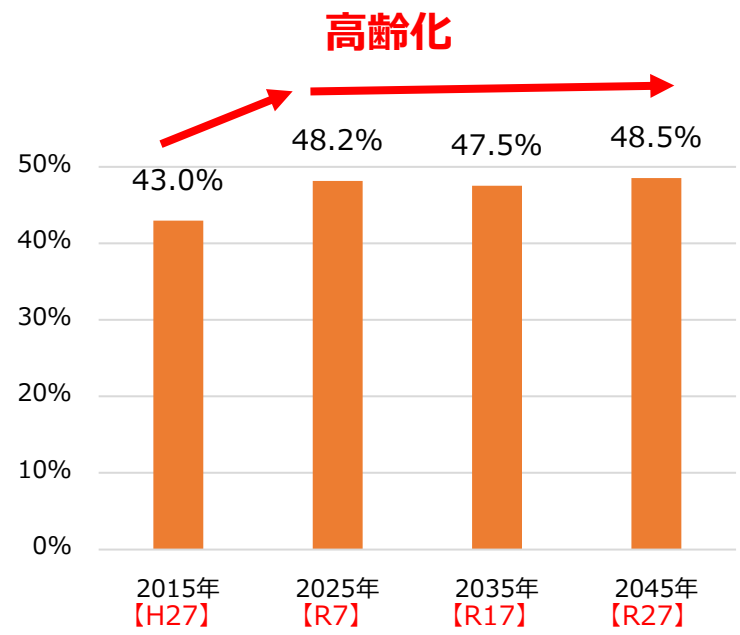
- 向原町の人口は、1990年から2015年にかけて減少の一途をたどっており、今後さらに減少することが予想されている。
- 高齢化率は2015年から2025年にかけて増加が予想されており、その後も高い数値が続くと見込まれている。

人口・高齢化率の推移



出典：(2015年以前) 国勢調査
 (2020年以降) 国勢調査のデータをもとに、国土交通省国土技術政策総合研究所の将来人口・世帯予測プログラムを用いて算出

図 人口の推移



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

図 高齢人口割合の推移（推計）

1. 向原町の現況（人口の推移）

○向原町の全域で人口密度の低下がみられる。向原支所や向原駅の周辺、鉄道の沿線においても人口密度が低くなっている。

人口密度

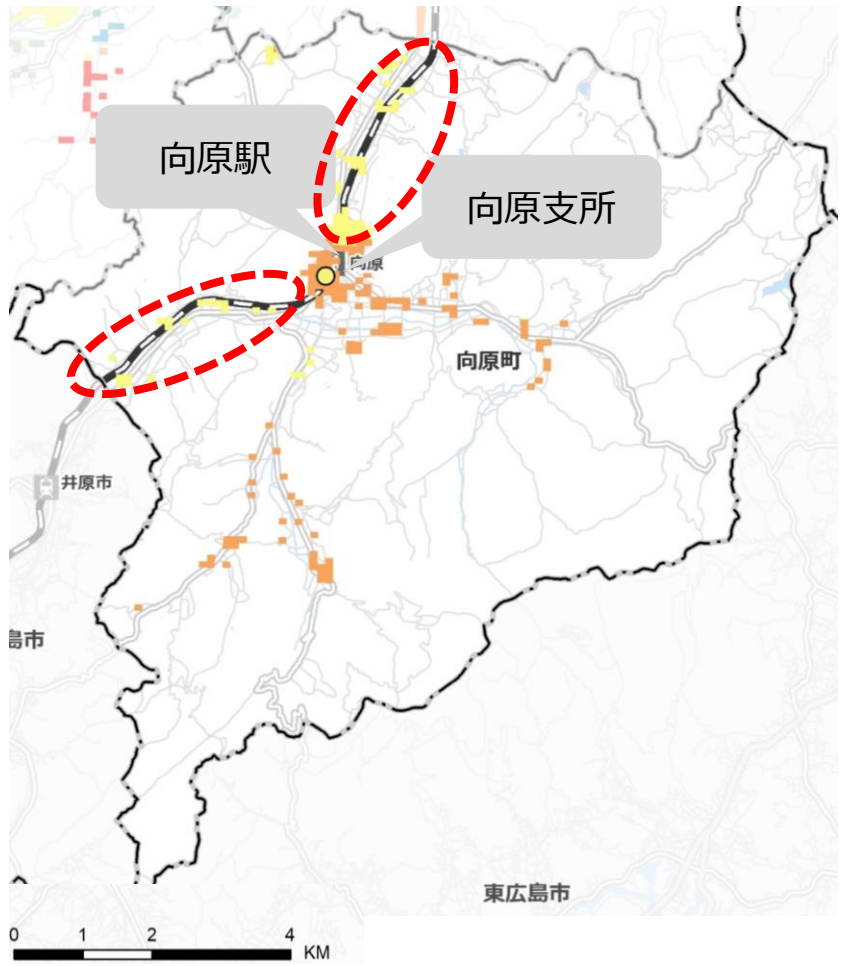
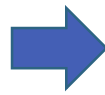


図 2015年における人口密度



- 凡例
- 都市計画区域
 - 市役所・支所
 - 人口密度(人/ha)
 - ~ 10 未満
 - 10以上 ~ 20 未満
 - 20以上 ~ 30 未満
 - 30以上 ~ 40 未満
 - 40以上 \sim
 - 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
 - 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

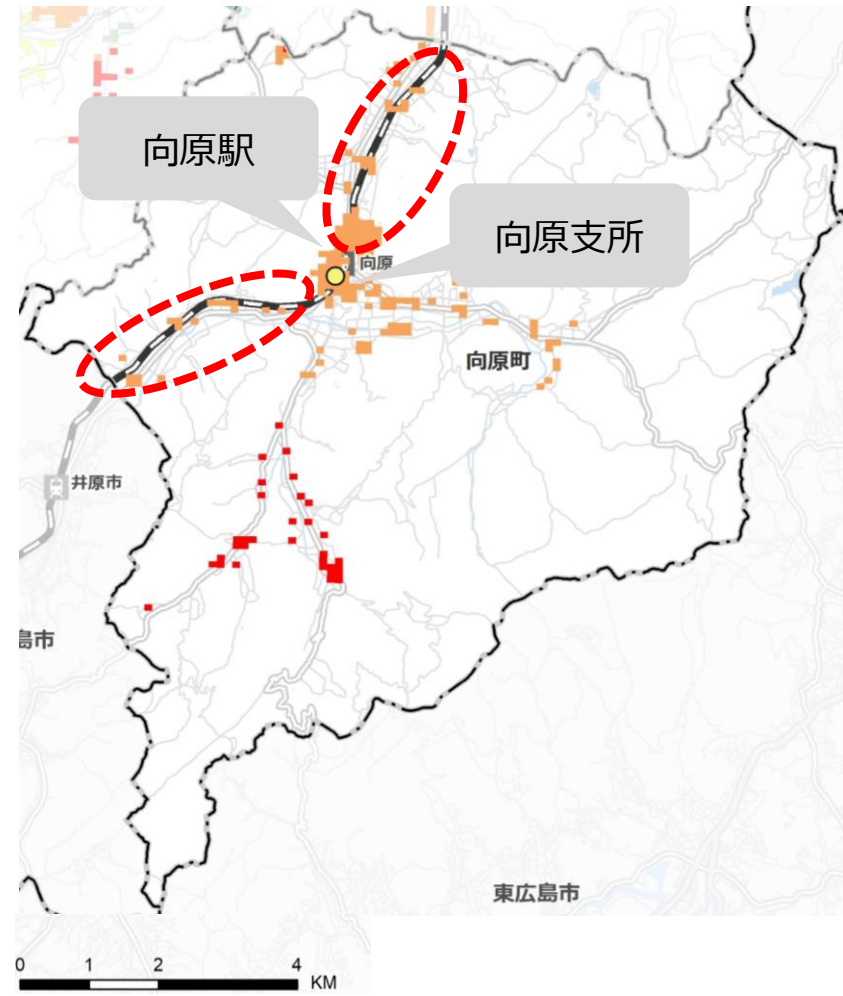


図 2045年における人口密度（推計）

1. 向原町の現況（人口の推移）

○向原町の全域で高齢化の進行がみられる。向原支所や向原駅の周辺、鉄道の沿線においても高齢化率が上昇しているほか、特に支所南西部では高齢化率55%以上のエリアもみられる。

高齢化率 ■ 向原町

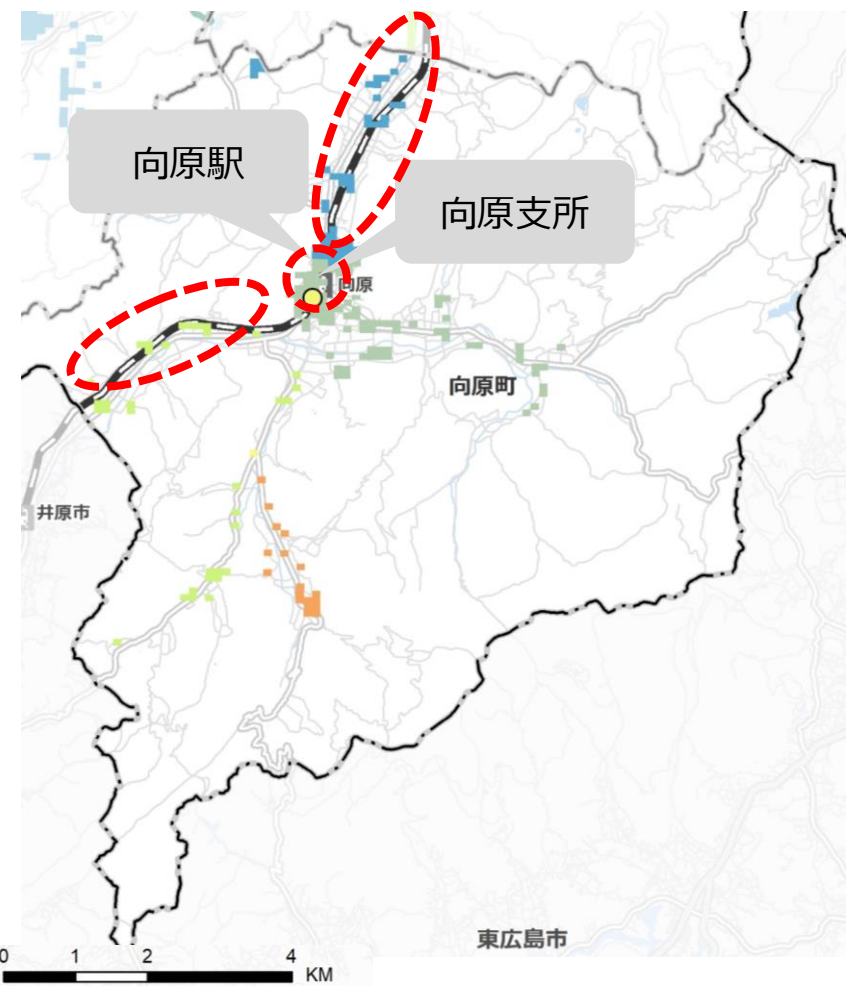


図 2015年における高齢化率

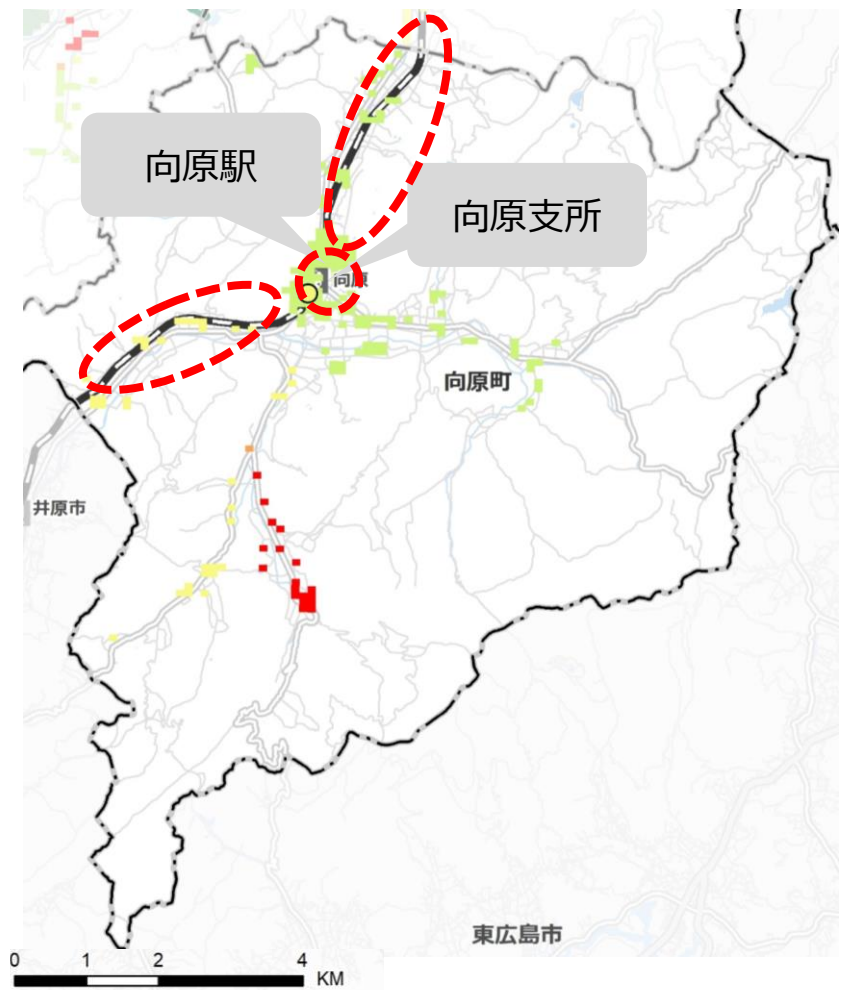
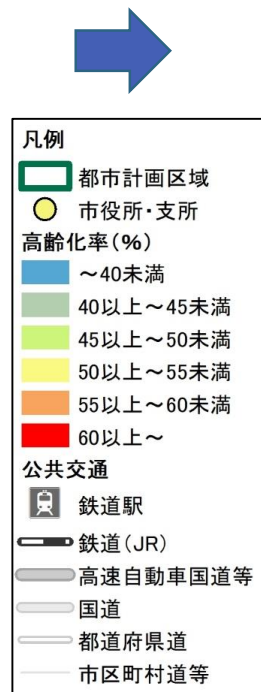
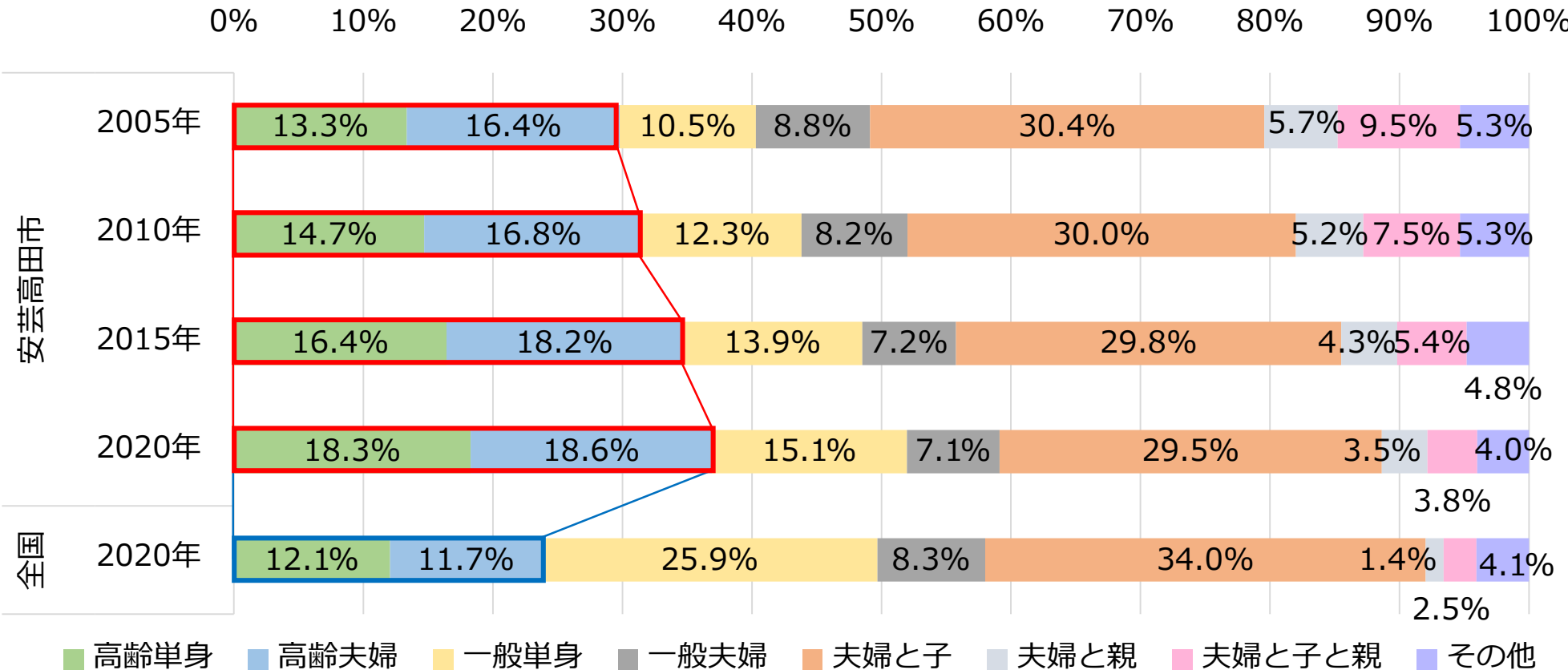


図 2045年における高齢化率（推計）

1. 向原町の現況（人口の推移）

- 安芸高田市全体では、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合が増加傾向にあり、今後もこの傾向は続くと考えられる。また、高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合は、全国と比較して高い。
- 高齢単身世帯、高齢夫婦世帯は、日常生活における移動が困難となることが予想される。
- ⇒高齢者が安全・安心・快適に生活できるような施設の立地、アクセス環境の整備が必要となる。



世帯数は一般世帯
 「夫婦と子」には、「男親（又は女親）と子」を含む
 「高齢夫婦」は、どちらか一方が65歳以上の世帯
 「その他」は、他の親族を含む世帯、兄弟世帯、非親族世帯など

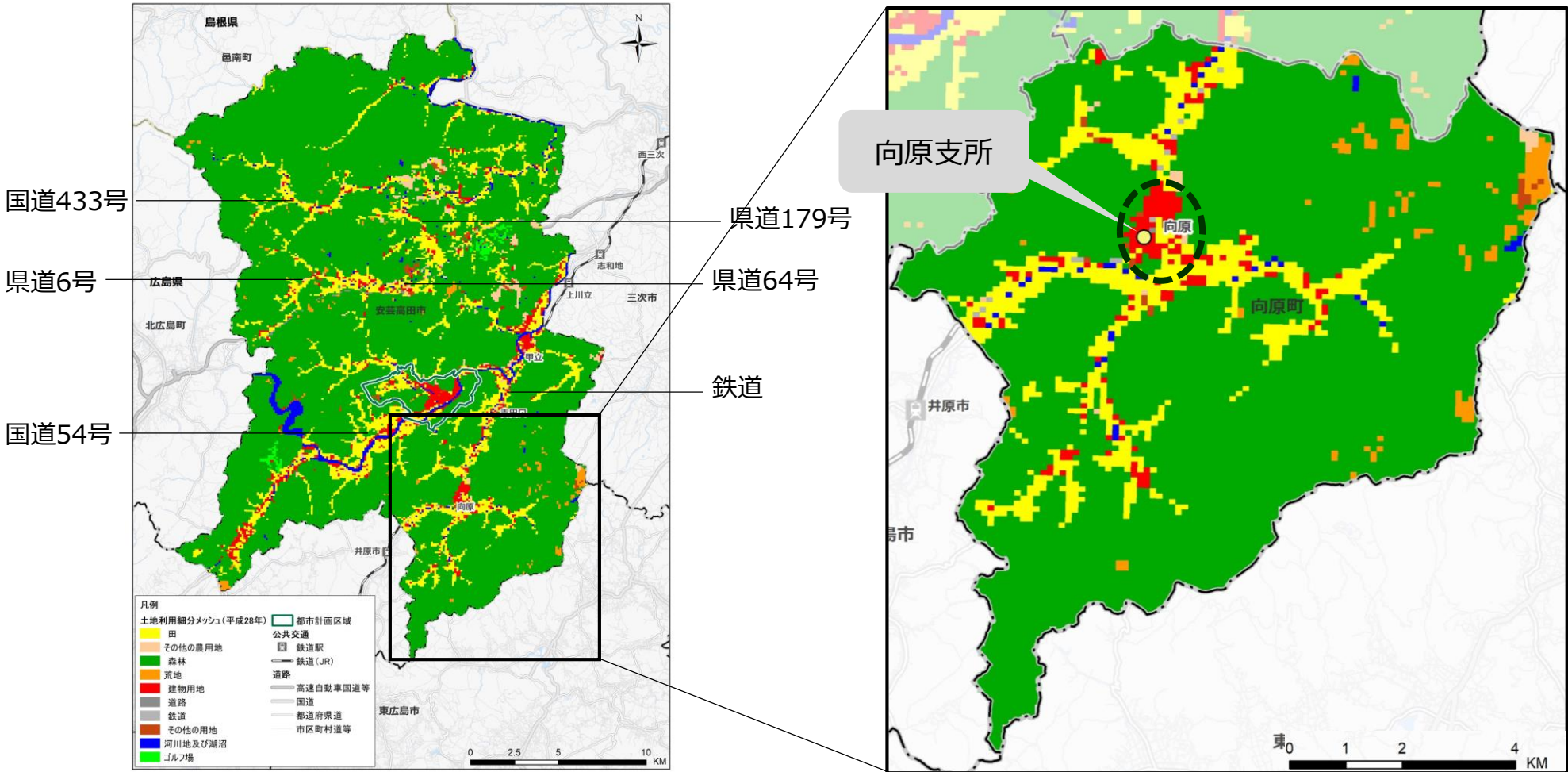
出典：国勢調査

図 家族類型別世帯数の推移

1. 向原町の現況（土地利用状況）

- 市の面積のほとんどを森林が占めており、鉄道、主要道路等の周辺に田、建物用地が広がっている。
- 向原町内の建物用地が向原支所の周辺に広がっているほか、その他のエリアにも点在している。

土地利用現況



出典：国土数値情報（2016年）

1. 向原町の現況（土地利用状況）

- 市内の空き家数は増加傾向にあり、2018年には3,220戸となった。
 - また、空き家率も増加しており、2018年においては21.8%となっている。これは、広島県の平均より約7%高い。
 - 向原町内の空き家数は市全体の17.6%となっている。
- ⇒現在放置されている空き家に対する対策、今後空き家を増やさないための対策が必要である。

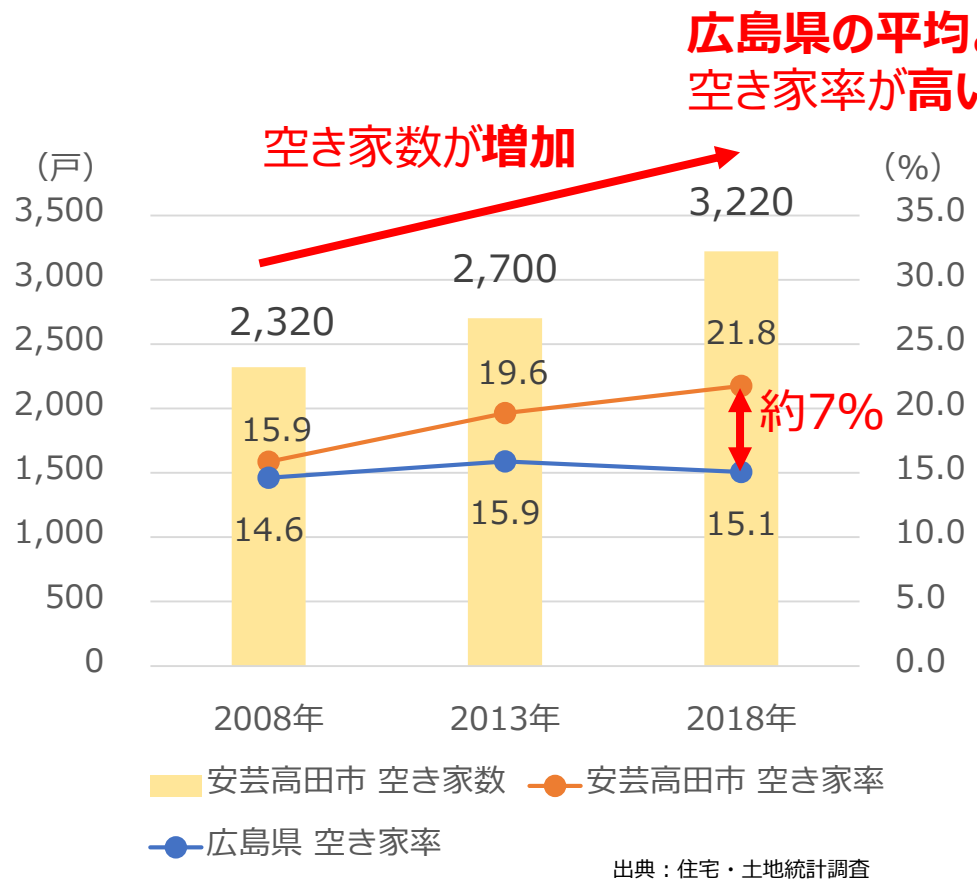


図 空き家数及び空き家率の推移

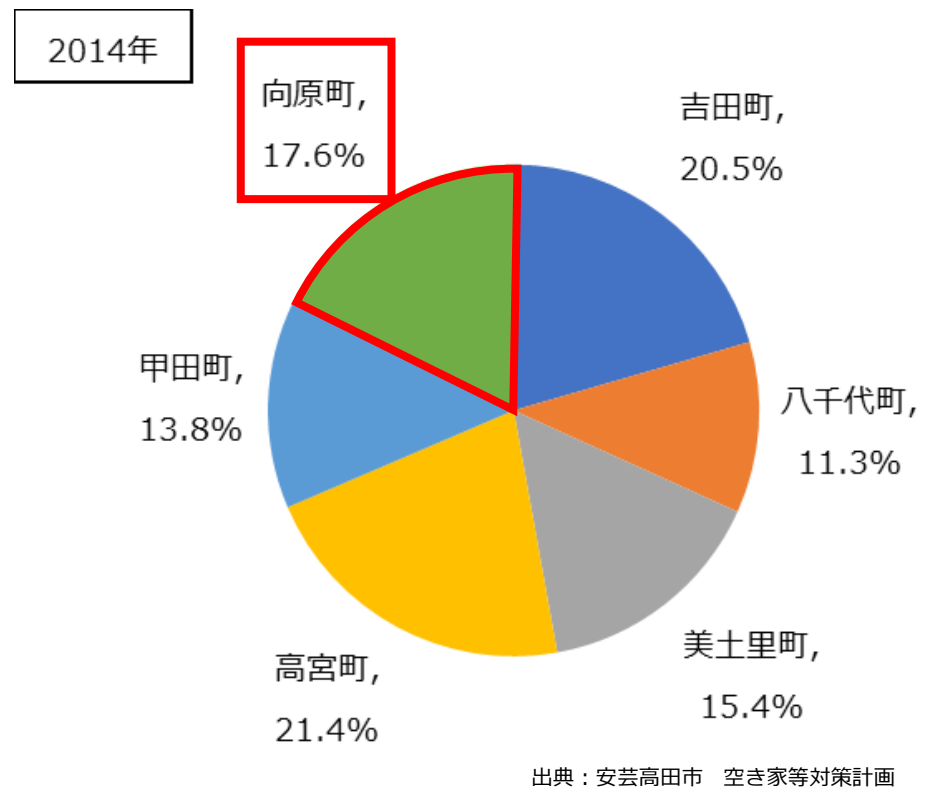


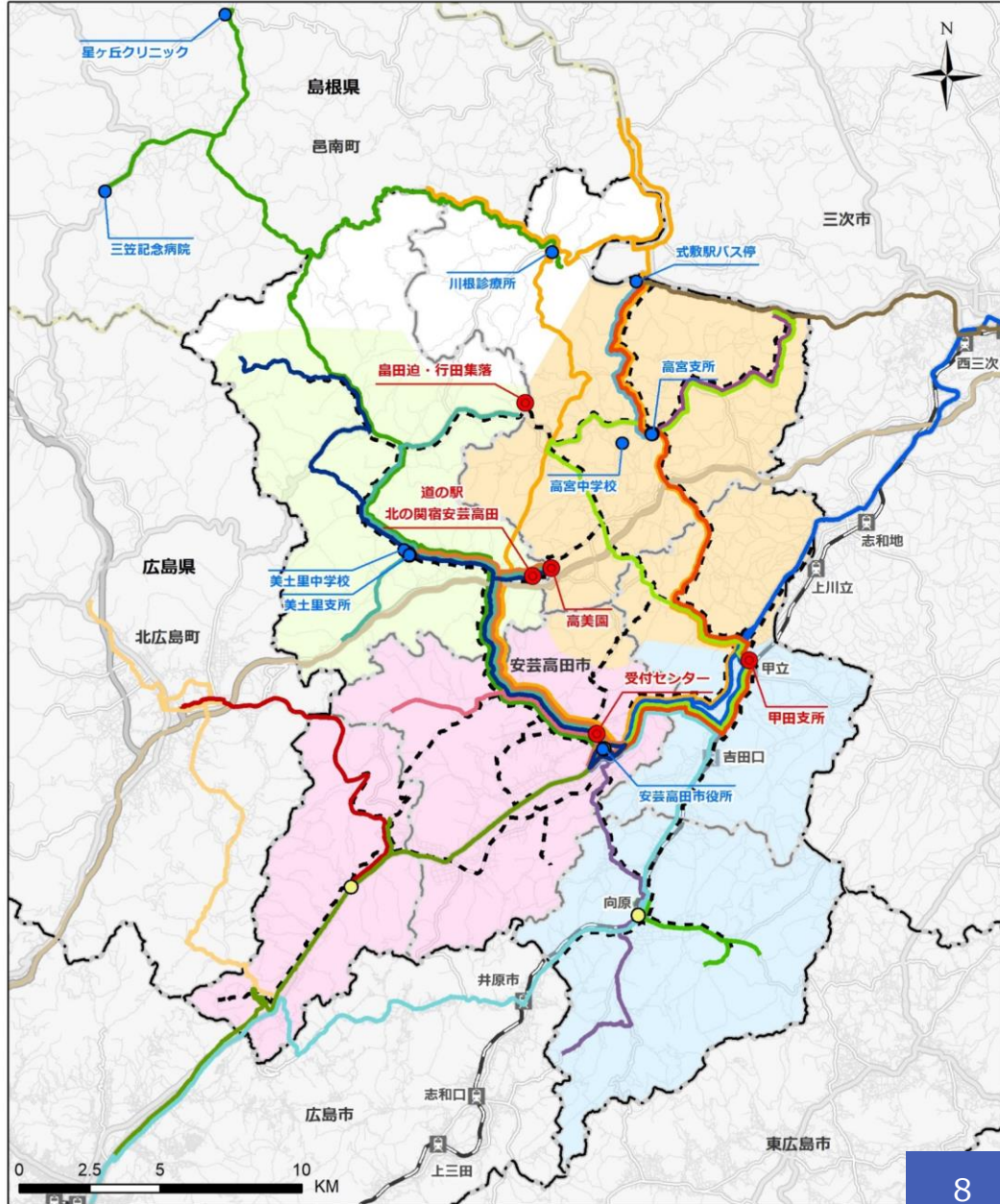
図 町別空き家数の割合

1. 向原町の現況（公共交通体系）

○現在の本市の公共交通はJR 芸備線、広域路線バス、高速バス、市内完結路線バスである「お太助バス」、高速バス、市内完結路線バスである「お太助バス」、デマンド型区域乗合である「お太助ワゴン」、自家用有償旅客運送である「もやい便・とろっこ便」、タクシーで構成されている。

■公共交通の運行路線

- | | | |
|---------------------|---------------|---------------|
| 凡例 | 運行イメージ | 公共交通 |
| ● 市役所・支所 | ● もやい便 | 🚉 鉄道駅 |
| ● 乗り換え地点(お太助ワゴン) | ● とろっこ便 | 🚊 鉄道(JR) |
| ● 主な行き先(もやい便・とろっこ便) | ■ お太助ワゴン | 道路 |
| | ■ お太助ワゴン運行エリア | — 高速自動車国道等 |
| | ■ 美土里区域 | — 国道 |
| | ■ 高宮甲田区域 | — 都道府県道 |
| | ■ 吉田八千代区域 | — 市区町村道等 |
| | ■ 甲田向原区域 | |
| 路線名 | | |
| — 風の谷内山線 | — 志屋線 | — 三次吉田線 |
| — 美土里中央線 | — 式敷駅線 | — 上根・吉田線 |
| — 曾我神社線 | — 船佐駅線 | — 千代田八千代線 |
| — 津々羅線 | — 上有留線 | — 千代田巡回バス畑壬生線 |
| — 式敷線 | — 出口線 | — 高速バス広島線 |
| — 船佐線 | — 式敷三次線 | |



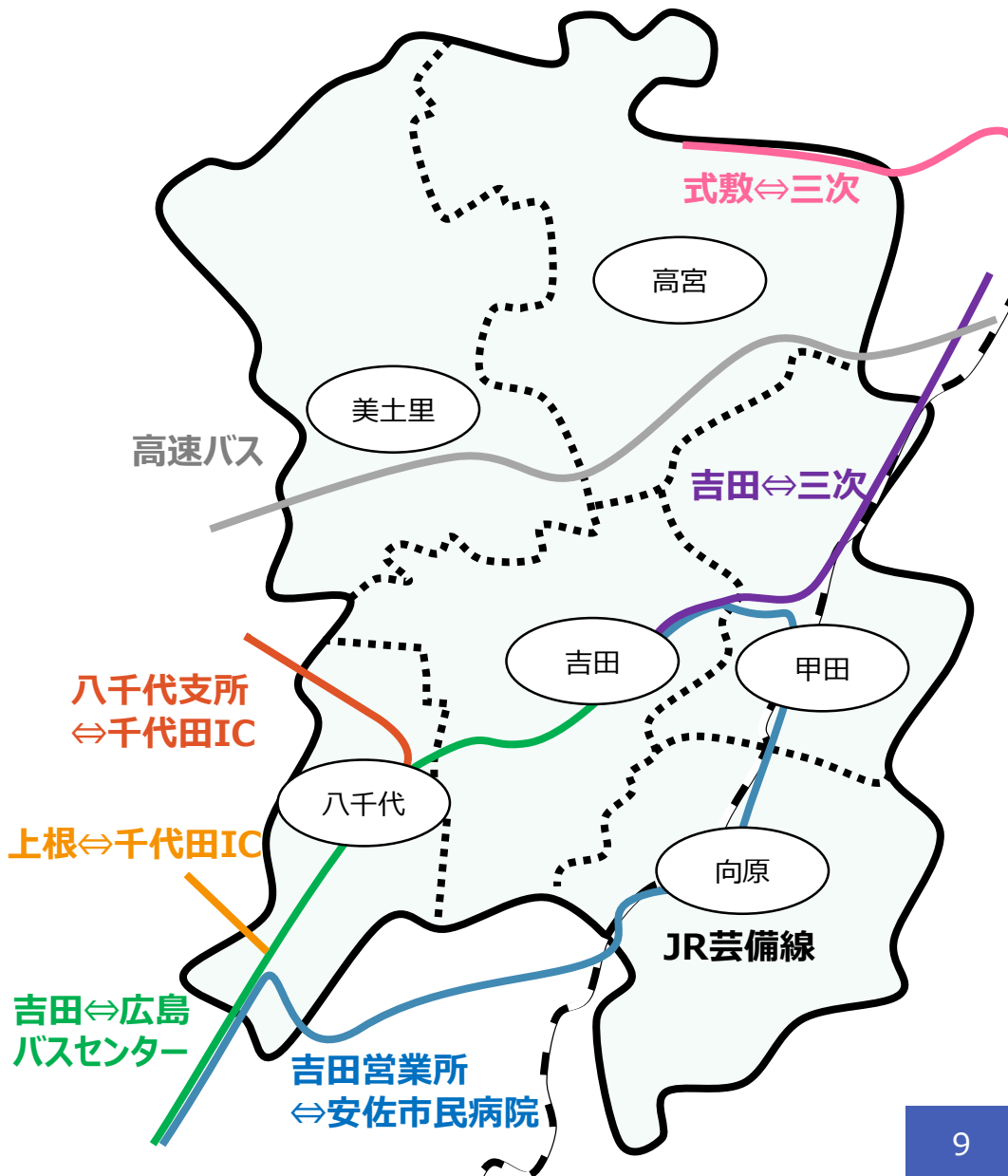
1. 向原町の現況（公共交通体系）

- 事業者等が運営する公共交通として、JR芸備線、広域路線バス、高速バスがある。
- 広域路線バスは、本市と広島市、北広島町、三次市を結んでおり、他市町の拠点へのアクセスが可能となっている。

■広域路線バスの運行情報

運行区間	運行本数	
志屋線	吉田出張所方面行き	月～金：8本 土：5本
	安佐市民病院方面行き	月～金：7本 土：5本
三次吉田線	吉田出張所方面行き	平日：5本 土：5本
	三次駅方面行き	平日：5本 土：5本
上根・吉田線	上根・吉田方面行き	平日：23本 土：19本 日祝：18本
	広島方面行き	平日：23本 土：19本 日祝：18本
千代田八千代線	八千代町方面行き	平日：2本 土：2本
	千代田インター方面行き	平日：2本 土：2本
千代田巡回バス 畑壬生線	南方・上根方面行き	月～金：3本 土：2本
	千代田インター方面行き	月～金：3本 土：2本
式敷三次線	三次方面行き	平休日：5本
	式敷方面行き	平休日：5本

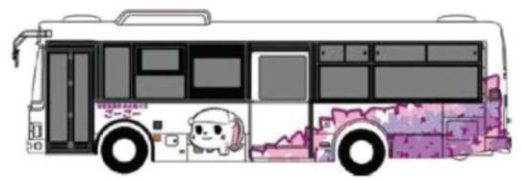
■事業者等が運営する公共交通の運行路線



1. 向原町の現況（公共交通体系）

- 事業者が運営する公共交通を補完する形で、市がお太助バスを導入している。
- お太助バスは主に市内を走る定期運行の路線である。
- 朝、夕の通勤・通学時間帯の移動を担っている。
- 車両は55人乗りまたは33人乗りであり、大人数の乗車が可能である。

■お太助バスの車両



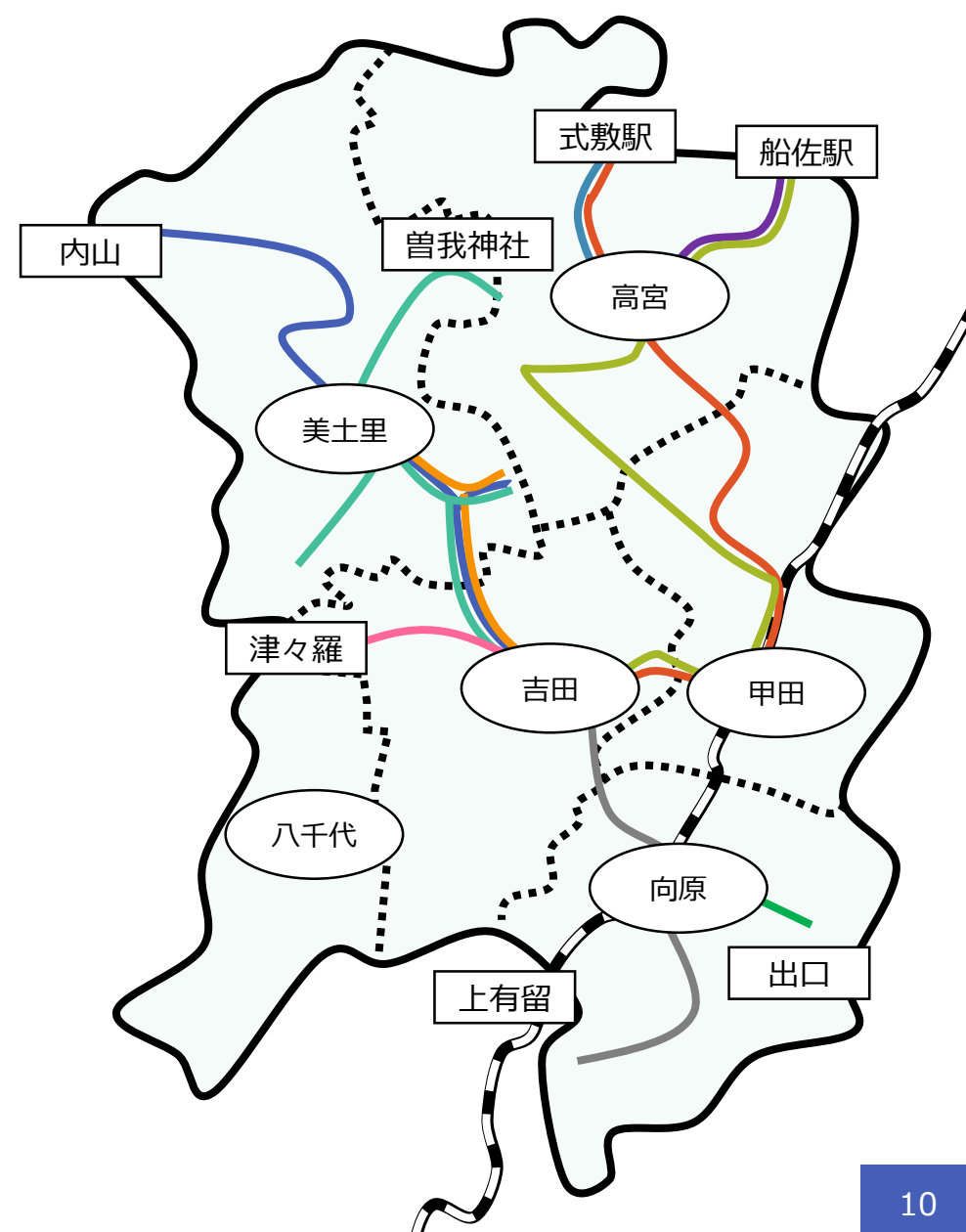
お太助バス「ごーごー」 (55人乗り)
 美土里線
 風の谷内山ー吉田営業所 芸北タクシー
 曾我神社ー吉田営業所 (有)高宮中央交通



お太助バス「さんさん」 (33人乗り)
 高宮線
 式敷駅ー吉田営業所 (株)高宮中央タクシー
 船佐駅ー吉田営業所 (株)高宮中央タクシー
 美土里線
 美土里中央ー吉田営業所 芸北タクシー

出典：安芸高田市地域公共交通 説明資料を一部更新

■お太助バスの運行路線



1. 向原町の現況（公共交通体系）

- さらに事業者が運営する公共交通を補完する形で、市がお太助ワゴンを導入している。
- お太助ワゴンは、各町と吉田間を運行するデマンド型区域乗合であり、町内・町外への移動が可能である。
- 昼間の時間帯の移動を担っている。
- 10人乗り程度の比較的小さな車両で運行している。

■お太助ワゴンの概要・利用方法

- ・ 事前の利用登録が必要。
- ・ 受付センターでの電話予約が必要。（オペレーターが対応）
- ・ 運行エリアの区域を越えた移動の際は、乗り換え地点で乗り換え。
- ・ 一番遠くから利用される方の乗車時刻が運行開始時刻となり、順に乗り降りを繰り返しながら、最終目的地に1時間以内に到着。

■お太助ワゴンの利用料金

	町内での移動	町外への移動	区域を超えた移動
大人	300円	500円	300円引き
小中学生、障害者手帳提示	100円	200円	100円引き
小学生未満	無料		

■お太助ワゴンの運行時刻表

地域⇒吉田	吉田⇒地域
午前 8:30	午前 8:00
9:00	10:00
10:00	12:00
11:00	午後 1:00
午後 1:00	2:00
3:00	2:30

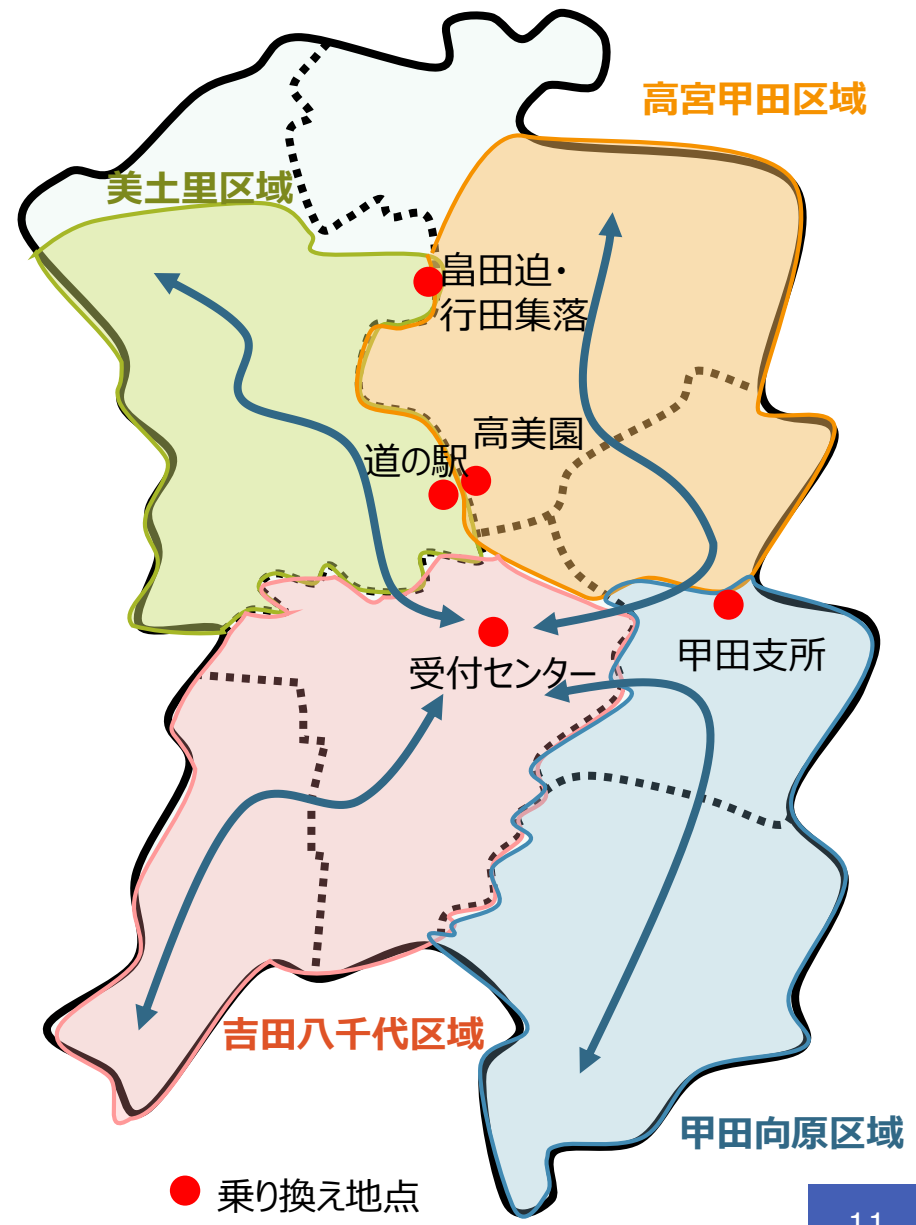
■お太助ワゴンの車両

お太助ワゴン（10人乗り）



出典：安芸高田市地域公共交通 説明資料を一部更新

■お太助ワゴンの運行路線

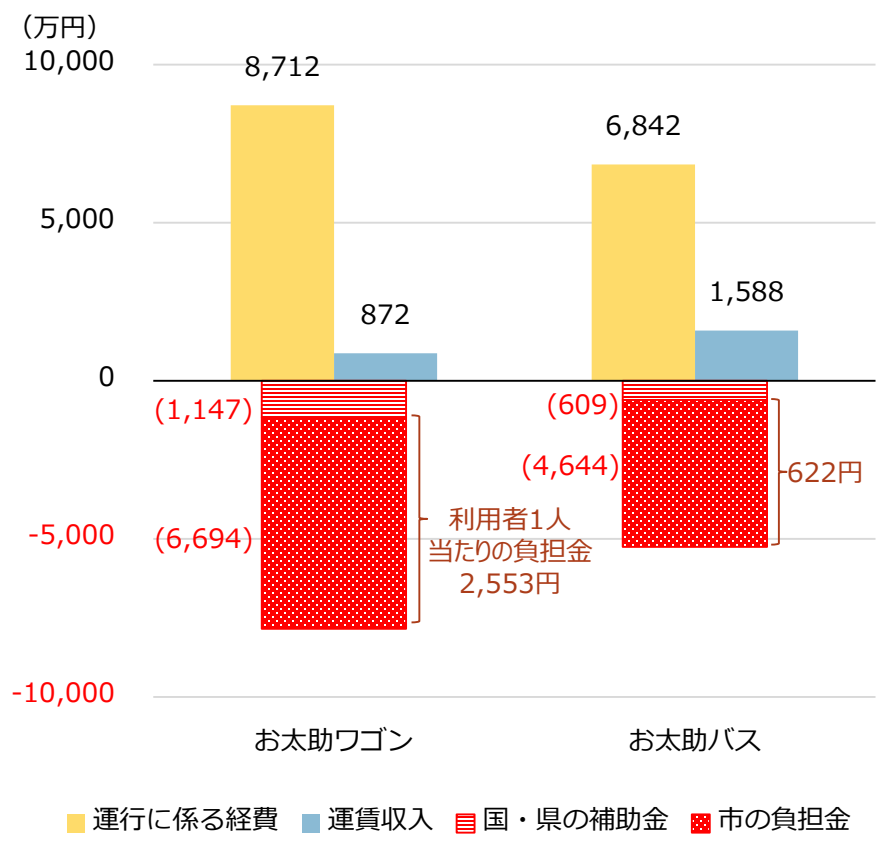


● 乗り換え地点

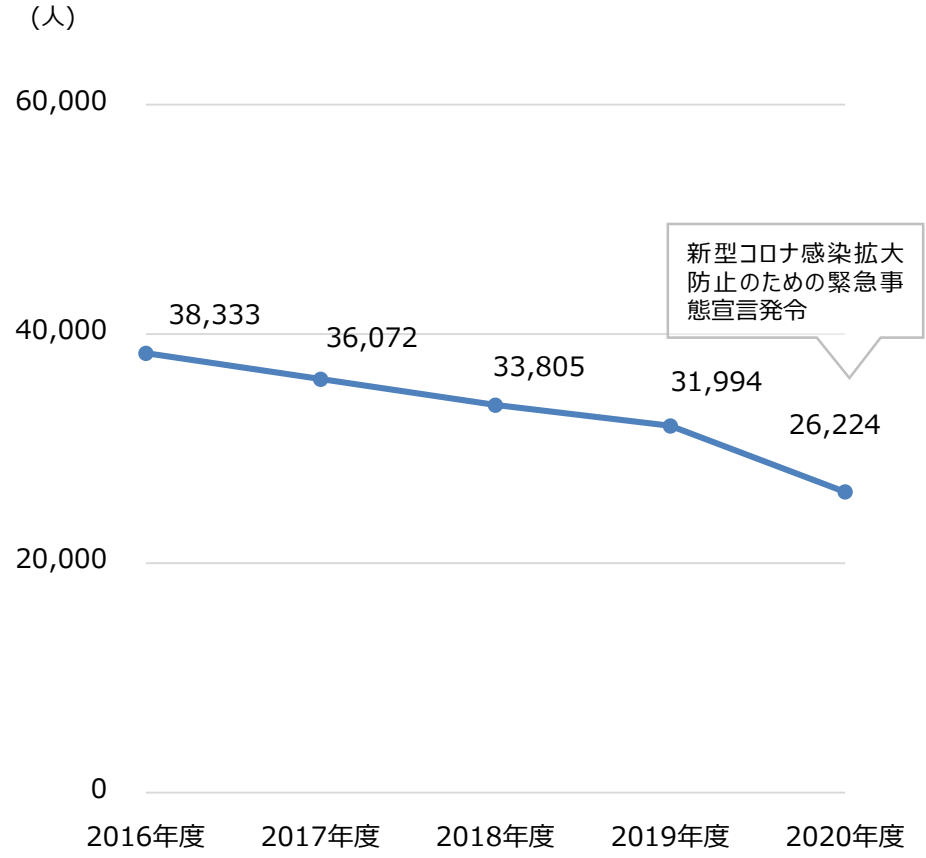
1. 向原町の現況（公共交通体系）

- 以上より、現状の公共交通は市内を網羅的にカバーしており、他市町へのアクセスも可能となっている。
 - その一方で、お太助ワゴン、お太助バスは、いずれも運行に係る経費が運賃収入を大きく上回っており、赤字分を国・県の補助金と市の負担金で補っている状況である。
 - お太助ワゴンの利用者数は減少傾向にあり、今後さらに収入が減少することも考えられる。
- ⇒公共交通の効率的な運用の検討が必要である。

■お太助ワゴン、お太助バスの予算収支（2020年度決算）



■お太助ワゴンの利用者数の推移



1. 向原町の現況（産業）

- 本市の産業別就業者数は第3次産業の割合が最も高く、その割合は増加傾向にある。
 - 卸売・小売業の年間販売額は、20年ほど前と比較して少ない。
 - 小売業の事業者数・従業員数は減少傾向にある。
- ⇒**従業者数に占める第3次産業の比率が高まる中、卸売・小売業の販売額等が縮小している。**
卸売・小売業が縮小することで、日常的な買い物が困難になる等、生活水準維持に対する課題が見込まれる。

第3次産業の割合 増加

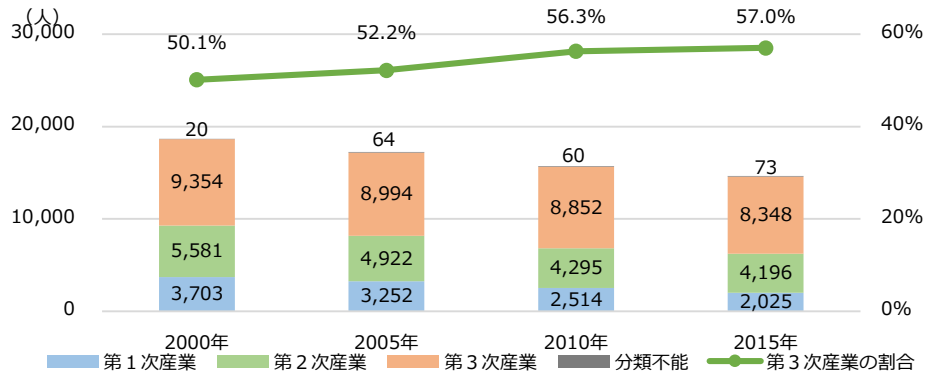


図 産業別従業者の推移

出典：国勢調査

小売業 事業所数・従業員 減少

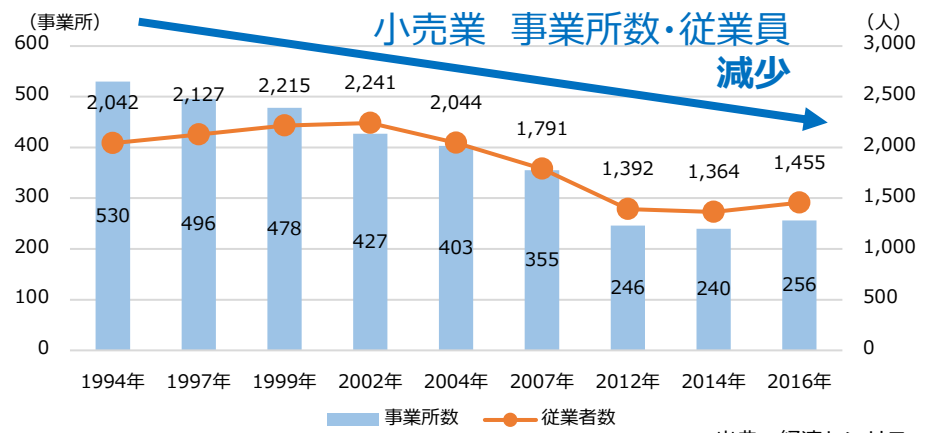


図 小売業の事業所数・従業員数の推移

出典：経済センサス

卸売・小売業販売額 減少

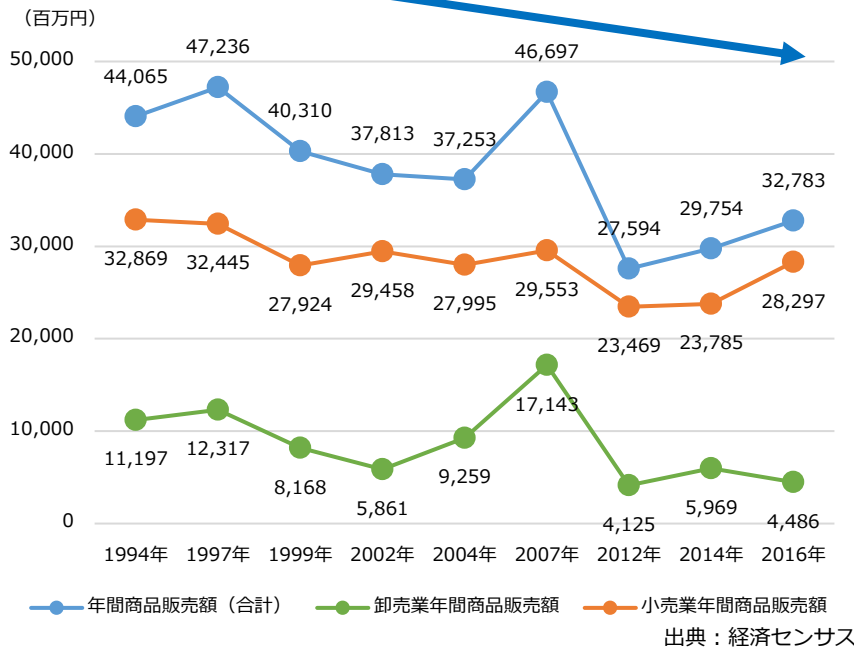


図 年間商品販売額・卸売業年間販売額・小売業年間販売額の推移

出典：経済センサス

1. 向原町の現況（産業）

- 本市の観光客は2005年から2010年にかけて減少し、2010年以降は130～150万人程度、県全体に占める割合は2.5%前後となっている。
 - 観光消費額は2007年以降減少傾向であったが、2014年には21億円台まで回復した。1人当たりの消費額は約1,000～1,500円で推移しており、高額とは言えない。
 - 交通手段に関しては、自家用車での来訪が圧倒的に多い。
- ⇒観光客数の増加、観光消費額の増加に向けた取組みが求められる。
 また、観光客が本市に来訪しやすく、市内の観光地を巡りやすいような公共交通の整備が求められる。

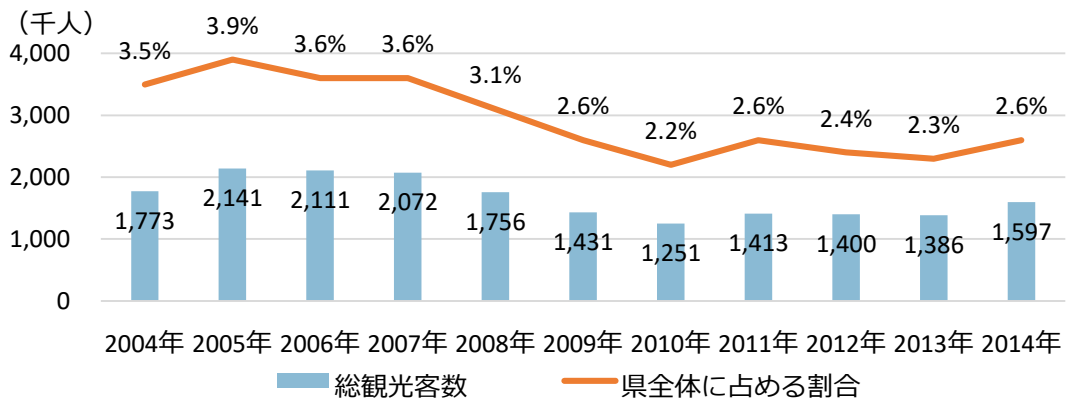


図 総観光客数の推移 出典：第2次安芸高田市観光振興計画

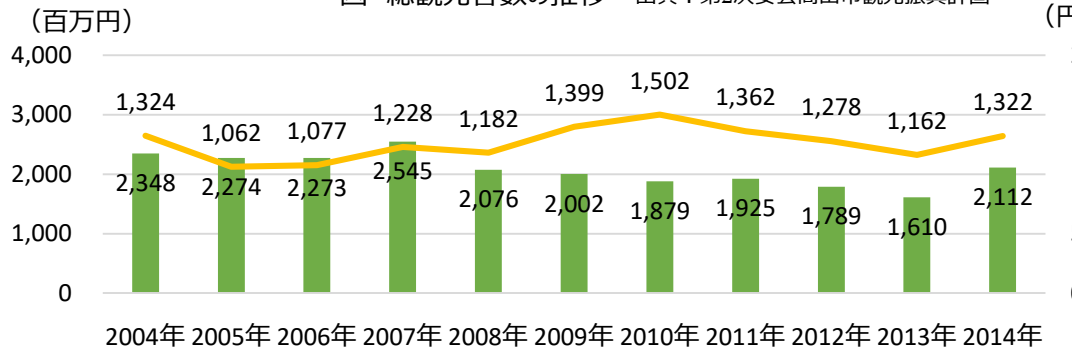
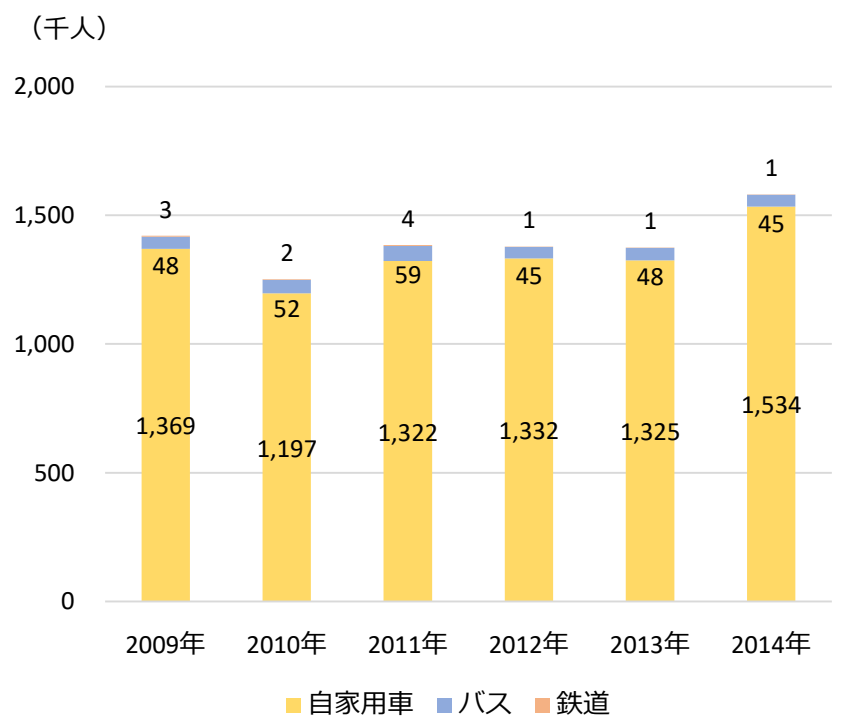


図 観光消費額の推移 出典：第2次安芸高田市観光振興計画



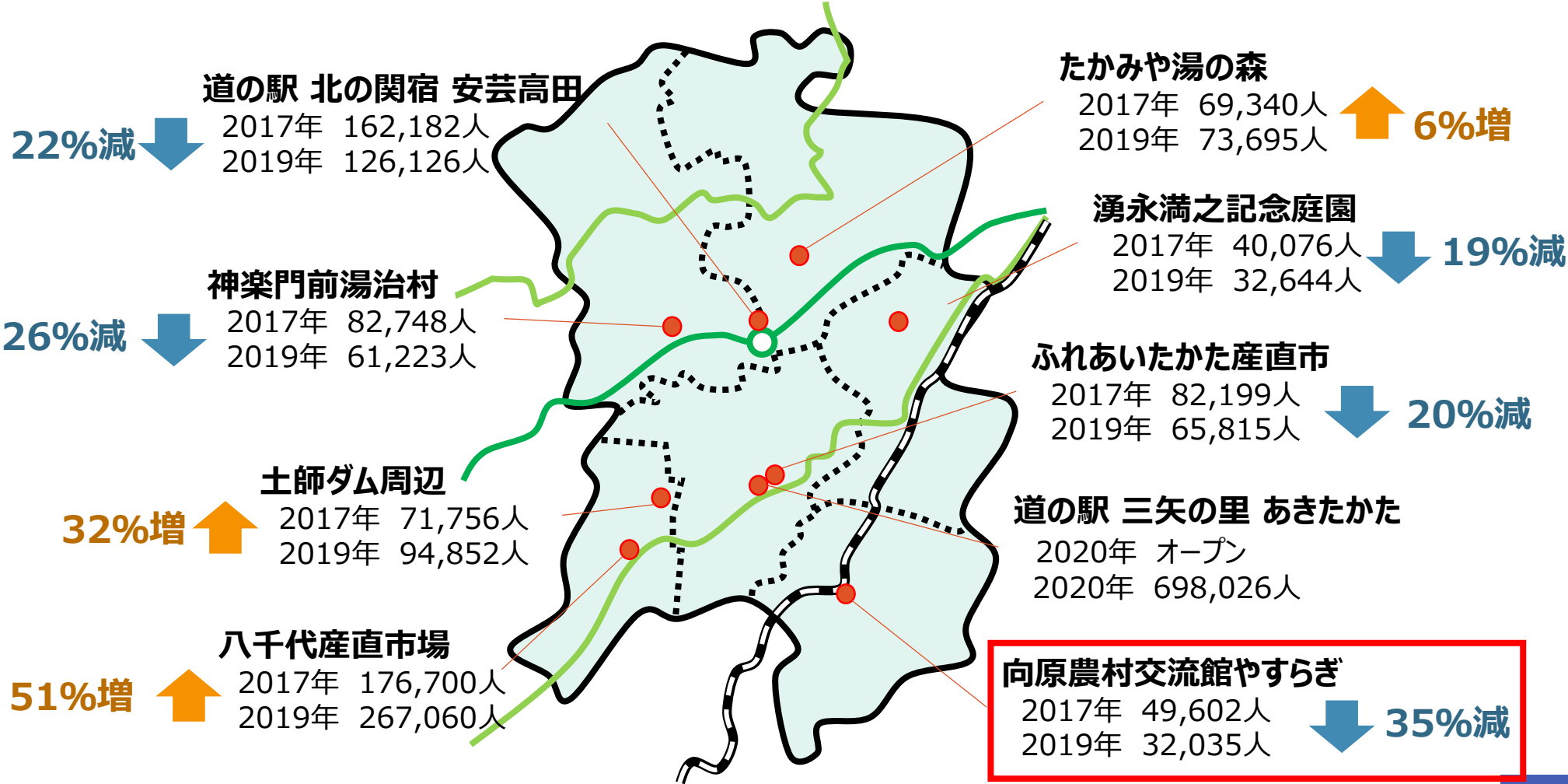
出典：出典：第2次安芸高田市観光振興計画

図 交通アクセスの状況

1. 向原町の現況（産業）

○向原町内の主な観光地として、向原農村交流館やすらぎなどが挙げられるが、2017年と2019年の入込観光客数を比較すると、35%減少している。

主な観光地と入込観光客数の推移

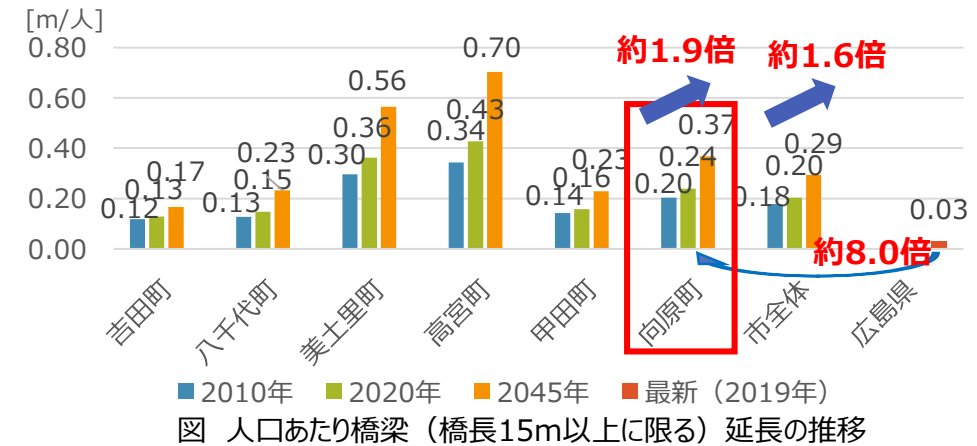
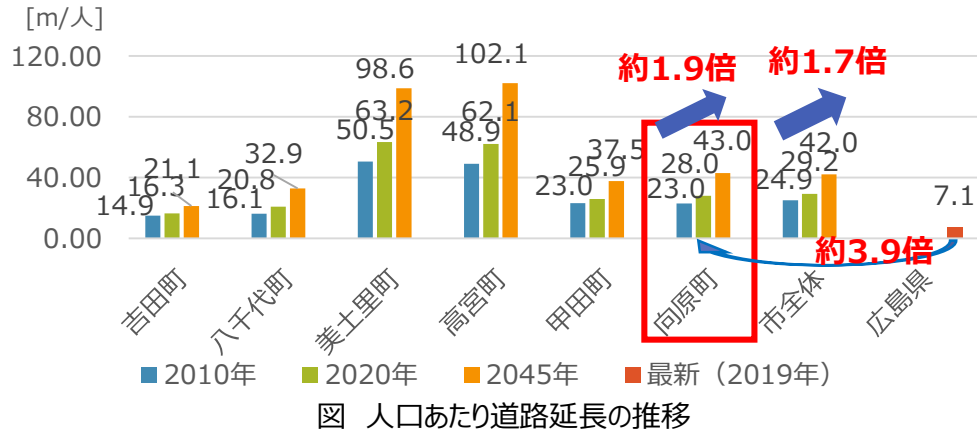


出典：安芸高田市観光統計調査

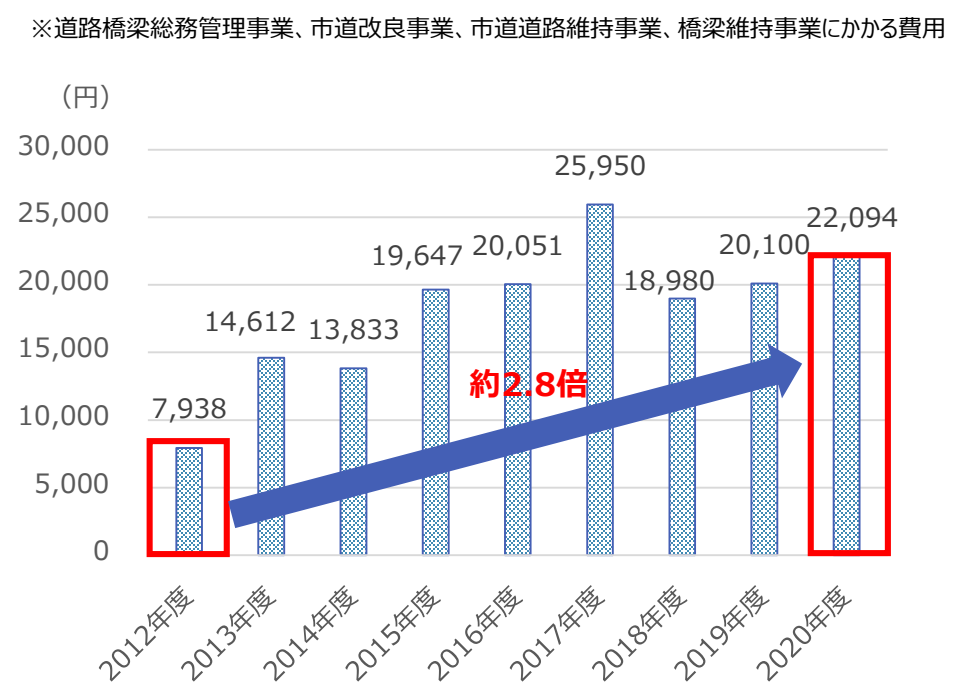
1. 向原町の現況（都市施設）

- 住民1人当たりの道路・橋梁延長を整理すると、2010年から2045年の間で、市全体で約1.6~1.7倍になると見込まれており、向原町でも約1.9倍になると見込まれている。
 - また、広島県全体の市町村道及び橋梁（データの都合上、橋長15m以上に限る）のデータから、広島県民1人当たりの延長も整理した。向原町の市民1人当たりの道路・橋梁延長をこれらと比較すると、道路は広島県の約3.9倍、橋梁は約8.0倍と大きい。（本市の2020年のデータと広島県の2019年のデータを比較）
 - 2020年度の道路・橋梁の維持管理にかかる市民1人当たりの費用は、2012年度の約2.8倍と増加している。
- ⇒今後人口減少が進行することで、市民1人当たりが負担すべき維持管理費の増大が懸念される。

【人口1人当たりの道路・橋梁延長の推移】



【市民1人当たりの道路・橋梁の維持管理費（年間）の推移】



参考：安芸高田市 2020年決算資料、住民基本台帳

1. 向原町の現況（都市施設）

○向原町では、特環下水道と農業下水道をあわせて、処理面積が237.3haとなっており、6町で2番目に大きい。
 ○向原町内の下水道の住民1人当たり処理面積には6町で最も大きく、2010年から2045年の間で約1.8倍になると見込まれている。また、下水道事業にかかる市民1人当たりのコストは、年間約4.5万円である。
 ⇒今後人口減少が進行することで、市民1人当たりが負担する必要があるインフラ維持費の増大が懸念されるほか、財政の悪化により、インフラ維持費を含めたまちの維持に必要なコストの支払いが困難となる可能性がある。

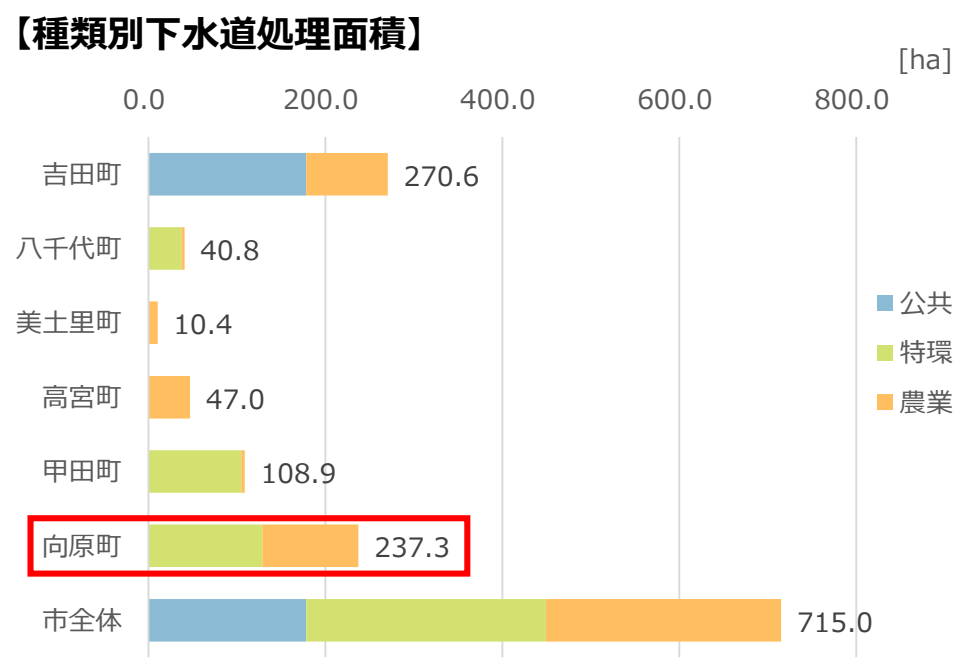
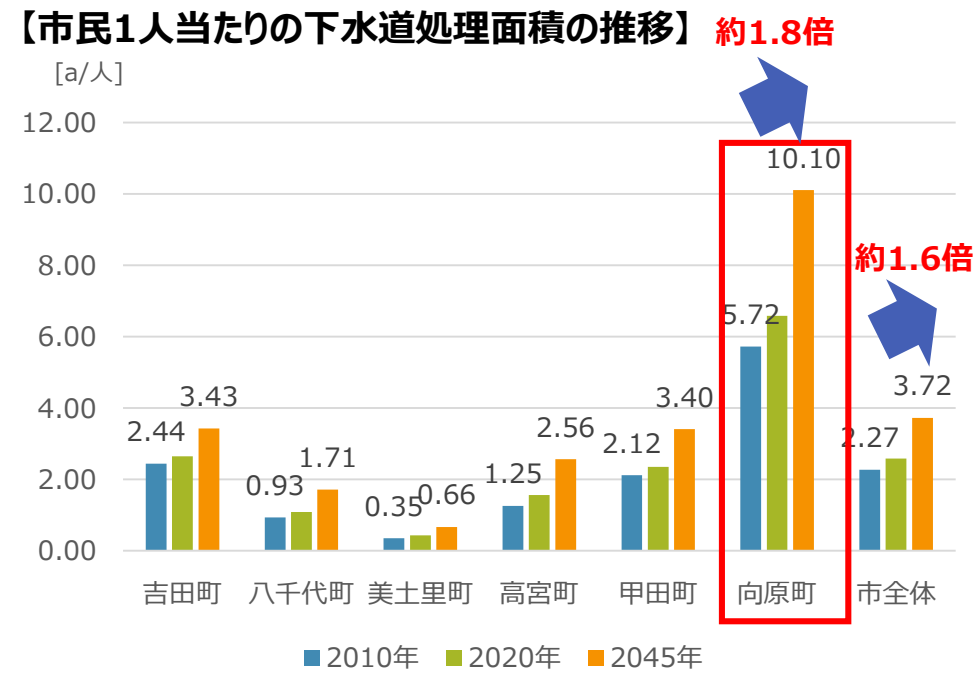
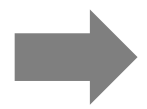


図 種類別下水道処理面積

【下水道にかかる費用】

下水道の年間事業費※
 合計 1,272,379,348 円



市民1人当たりの年間事業費
 44,976 円

※公共下水道事業、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業（令和元年度歳出総額のうち、令和2年度への繰越分を除く）

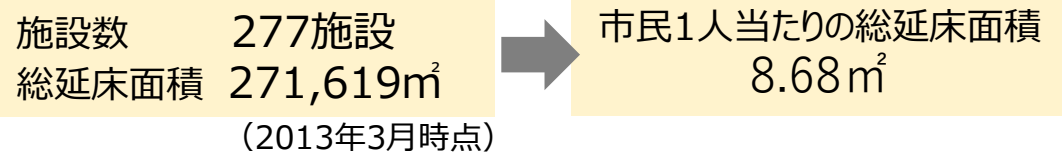
参考：安芸高田市 令和元年度決算資料

1. 向原町の現況（都市施設）

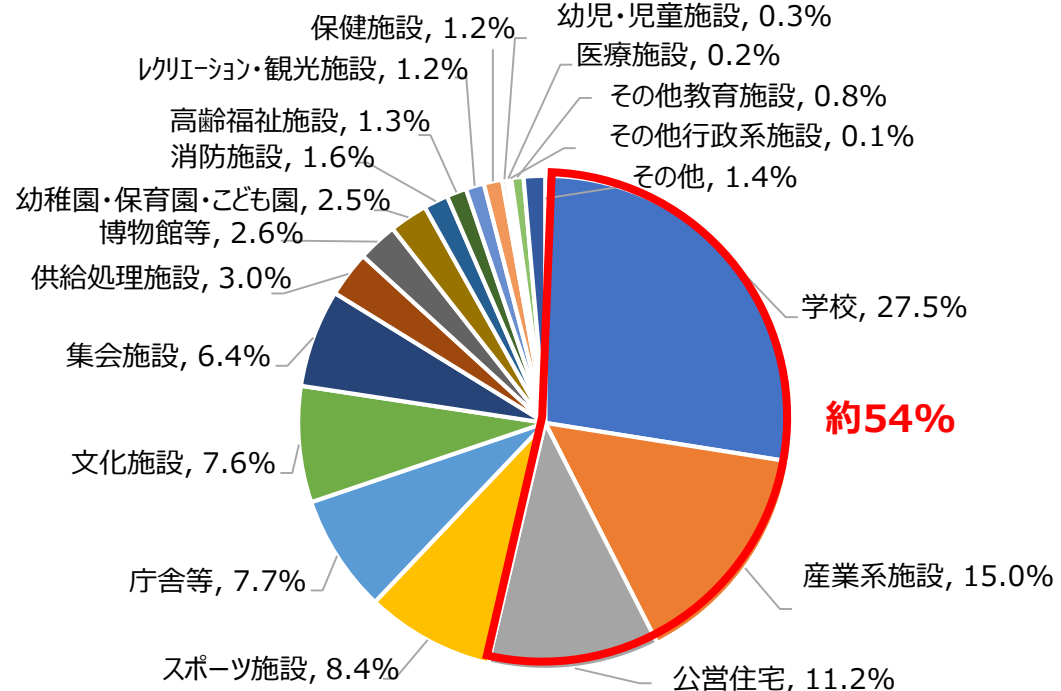
○市全体の公共施設数は2013年時点で277施設であり、総延床面積は271,619㎡、市民1人あたりでは8.68㎡である。用途別面積では、学校施設が最も多く、次に産業系施設、公営住宅となっており、この3用途だけで全体の約54%を占めている。

⇒今後人口減少が進行することで、市民1人あたりが負担する必要のある維持費の増大が懸念される。また、少子化の現状を踏まえ、学校をはじめとする施設の再編が求められる。

【施設保有状況】



【施設の用途別面積の割合】



【施設の用途別面積と割合】

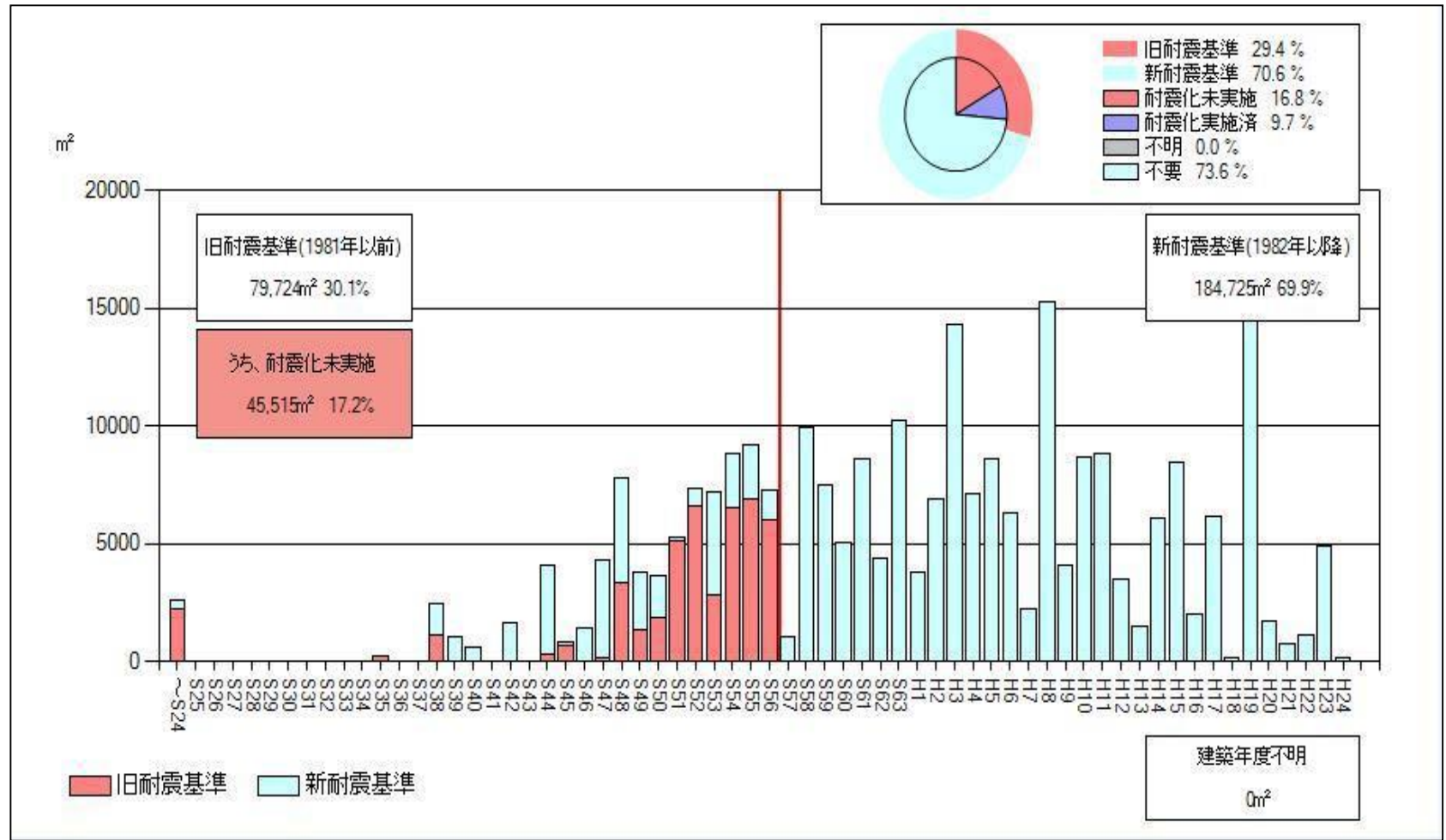
用途別	面積 (㎡)	割合
学校	74,673	27.5%
産業系施設	40,706	15.0%
公営住宅	30,500	11.2%
スポーツ施設	22,832	8.4%
庁舎等	20,905	7.7%
文化施設	20,588	7.6%
集会施設	17,284	6.4%
供給処理施設	8,272	3.0%
博物館等	7,151	2.6%
幼稚園・保育園・こども園	6,795	2.5%
消防施設	4,294	1.6%
高齢福祉施設	3,478	1.3%
レクリエーション・観光施設	3,355	1.2%
保健施設	3,308	1.2%
幼児・児童施設	934	0.3%
医療施設	441	0.2%
その他行政系施設	192	0.1%
その他教育施設	2,057	0.8%
その他	3,843	1.4%

出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 向原町の現況（都市施設）

○本市において、旧耐震基準である昭和56年（1981年）5月以前に建築された施設は全体の約30%であり、そのうち約17%は耐震化未実施である。
 ⇒今後急速な老朽化の進行が懸念され、老朽化対策及び長寿命化の推進が必要である。
 また、耐震化未実施施設の耐震化が必要である。

【耐震化延床面積の推移】

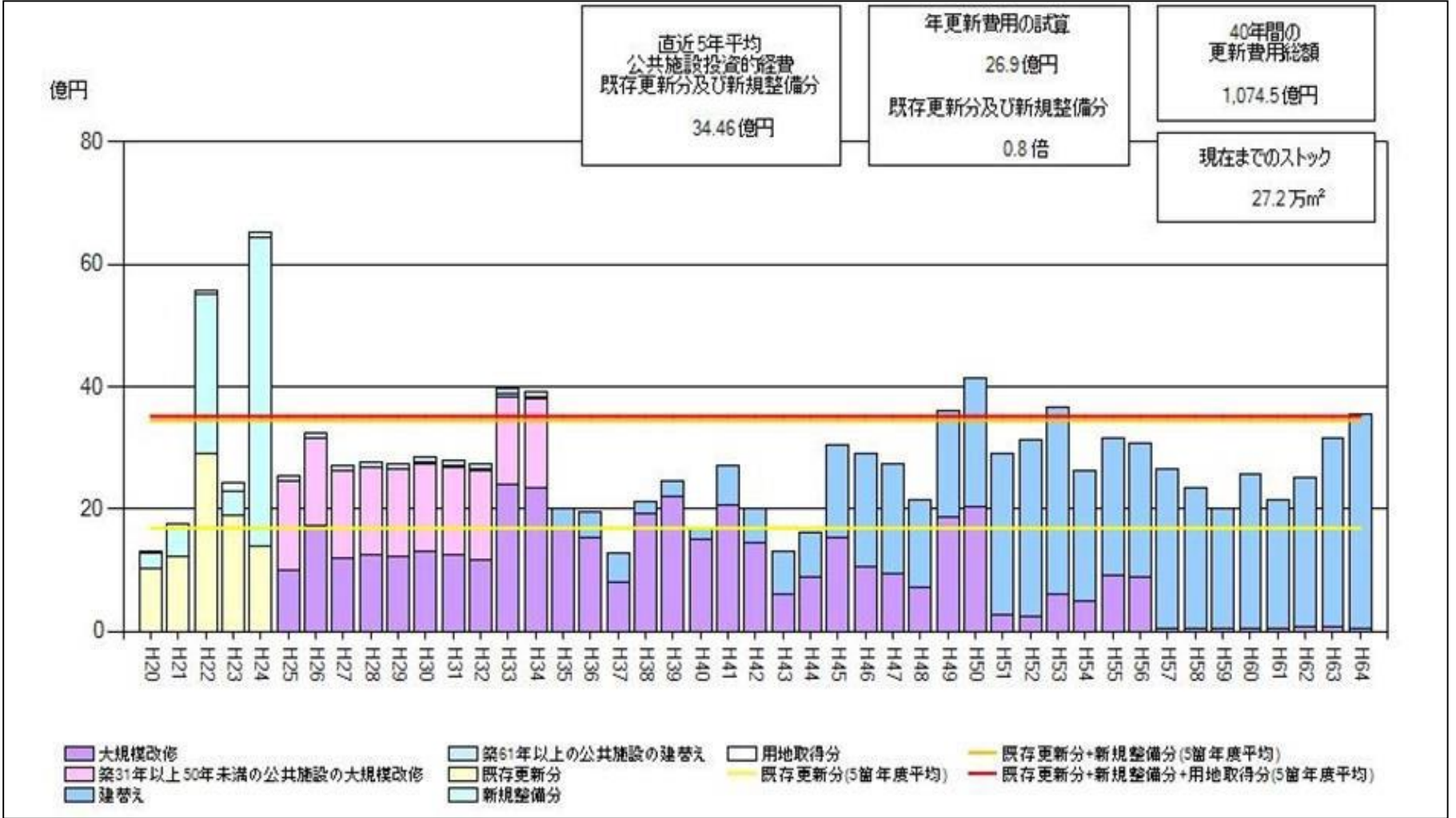


出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 向原町の現況（都市施設）

○平成25年度（2013年度）以降の40年間で市全体で発生する更新・大規模改修の費用を試算すると、総額で約1,074億5千万円（年平均で約26億9千万円）となる。支払いにあたって費用の大幅な不足が予想される。
 ⇒公共施設の集約、再編を進めることで、大規模改修及び更新件数を削減する必要がある。

【将来更新費用推計表】

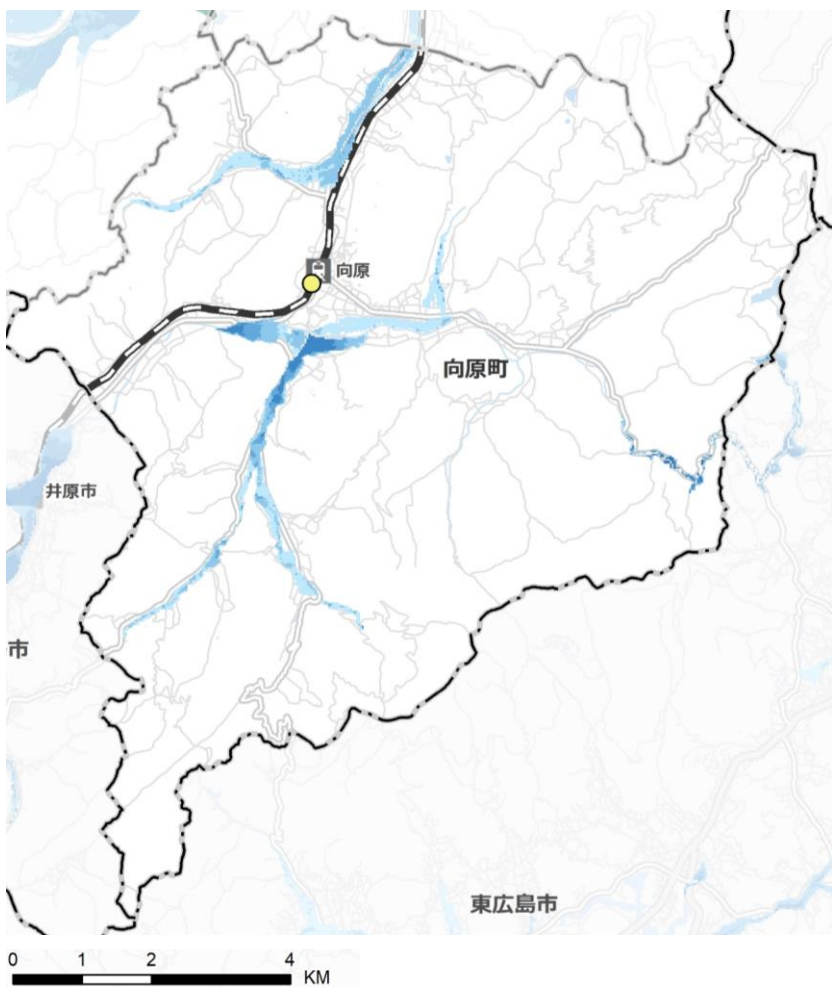


出典：安芸高田市公共施設等総合管理計画

1. 向原町の現況 (防災)

○向原町内では、三篠川や見坂川、戸島川の流域を中心に、想定最大規模での浸水想定が最大10m以上となっている。また、見坂川などの流域の一部では、高齢人口密度の高い地域も浸水想定区域となっている。
 ⇒浸水想定区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

浸水想定区域 ※最大想定規模

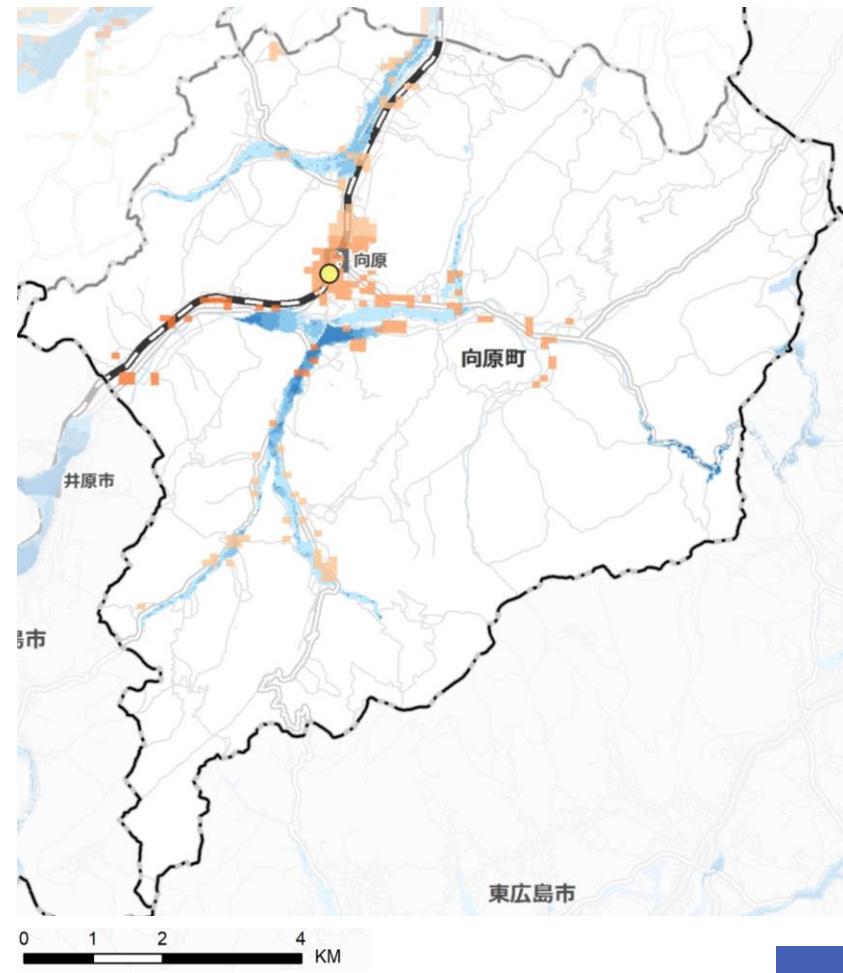


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

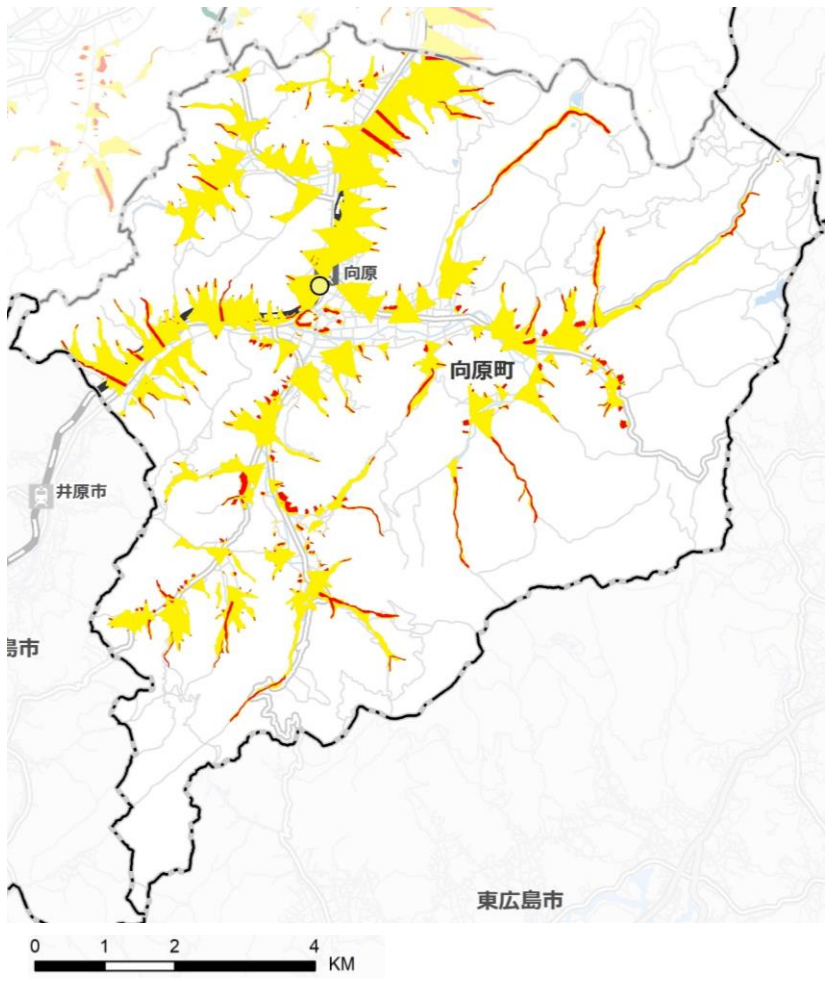
- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
 - ~5未満
 - 5以上~8未満
 - 8以上~10未満
 - 10以上~15未満
 - 15以上~
- 洪水浸水想定区域(2020年)
 - 0m以上0.5m未満
 - 0.5m以上3.0m未満
 - 3.0m以上5.0m未満
 - 5.0m以上10.0m未満
 - 10.0m以上20.0m未満
 - 20.0m以上
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



1. 向原町の現況 (防災)

- 県道37号沿道をはじめ、町内の広範囲が土砂災害警戒区域・特別警戒区域に指定されている。
 - 向原支所周辺など、土砂災害警戒区域周辺には、高齢人口密度が高い地域も存在する。
- ⇒ 土砂災害警戒区域付近の住民、特に高齢者の安全確保に配慮する必要がある。

土砂災害警戒区域

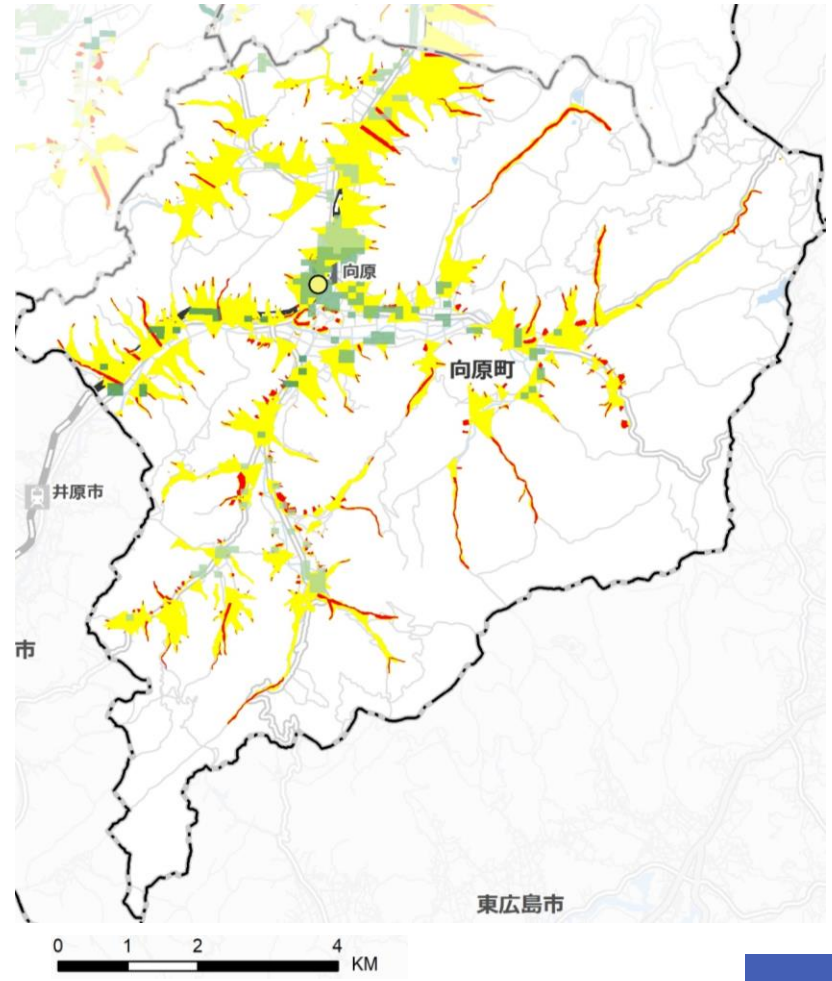


高齢人口密度
と重ね合わせ



凡例

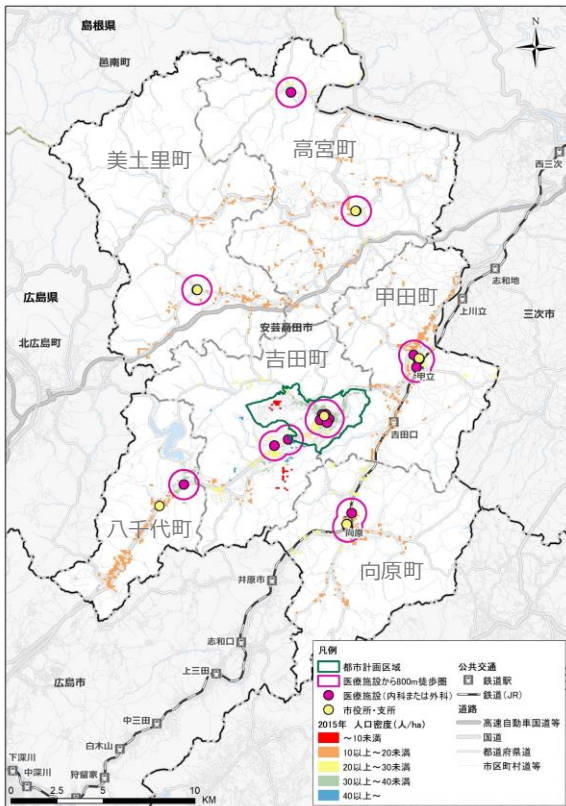
- 都市計画区域
- 市役所・支所
- 2015年 高齢人口密度(人/ha)
 - ～5未満
 - 5以上～8未満
 - 8以上～10未満
 - 10以上～15未満
 - 15以上～
- 土砂災害警戒区域(2020年)
 - 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域
- 公共交通
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
- 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等



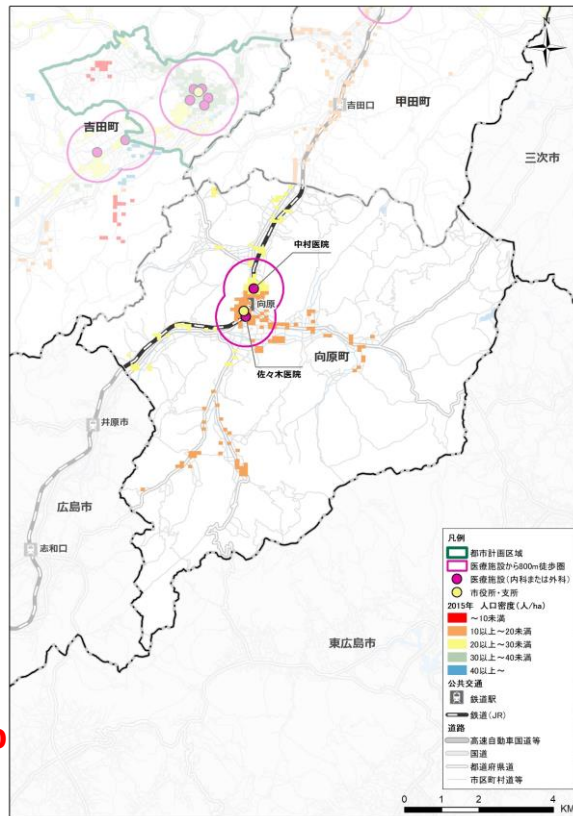
1. 向原町の現況（都市構造の評価）

○本市の医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率は**34.8%**であり、全国平均、同規模都市（人口5万未満）のカバー率と比較しても**低い**。

医療施設（内科・外科）の徒歩圏人口カバー率



向原町拡大



全国平均より**33.2%**、
同規模都市より**22.2%**
低い

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
生活サービス（医療） 徒歩圏人口カバー率	34.8%	68.0%	93.0%	89.0%	80.0%	70.0%	57.0%

【算定式】
生活サービス（医療施設）徒歩圏人口カバー率 = 国土数値情報（医療施設）のデータを活用し、医療施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

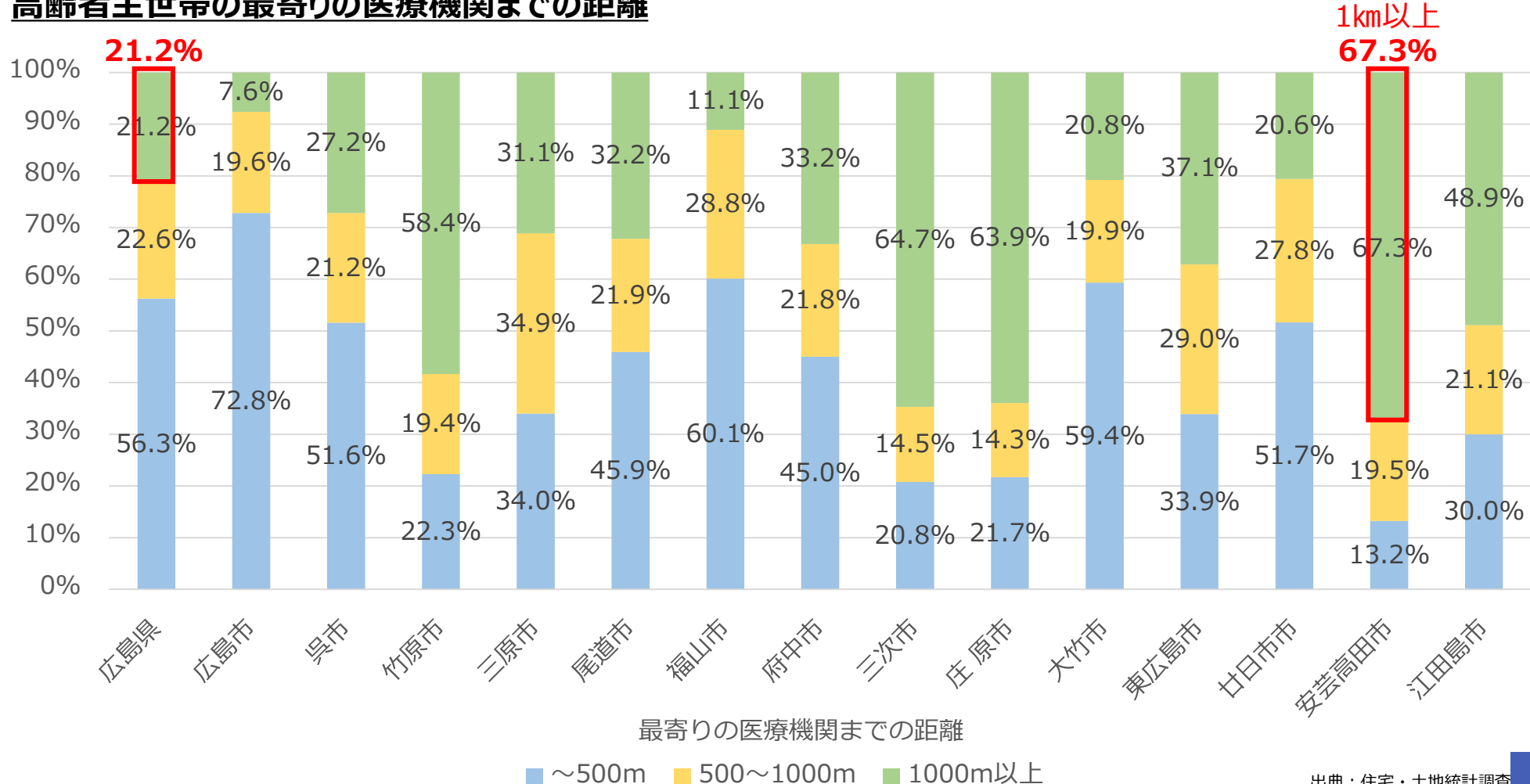
※医療施設…病院（内科又は外科）及び診療所

出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 向原町の現況（都市構造の評価）

- 本市の高齢者主世帯の最寄りの医療機関までの距離は、1km以上の割合が67.3%と高く、多くの高齢者が自宅から離れた医療機関を訪ねなければならない状況である。
- 一方、広島県全体では1km以上の割合が21.2%と低いことから、本市は県内の他市と比較して医療機関までの距離が遠く、アクセス性に課題があるといえる。

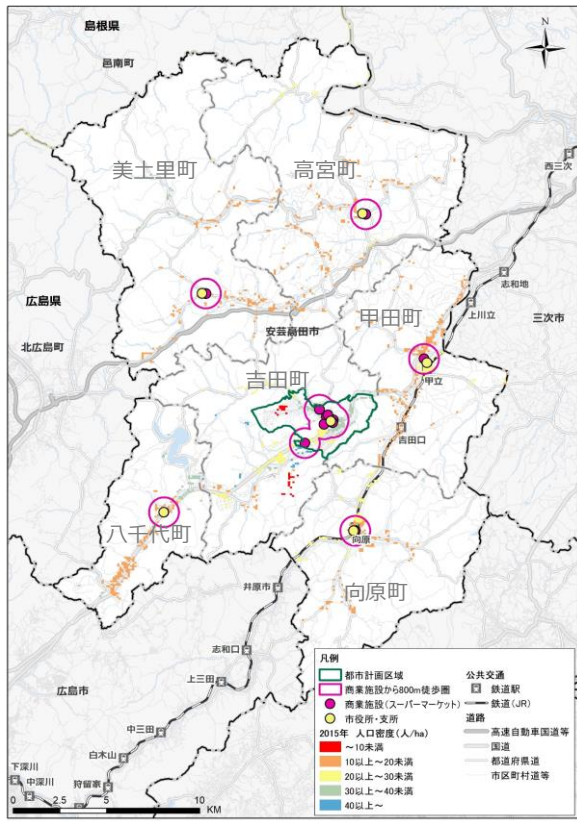
高齢者主世帯の最寄りの医療機関までの距離



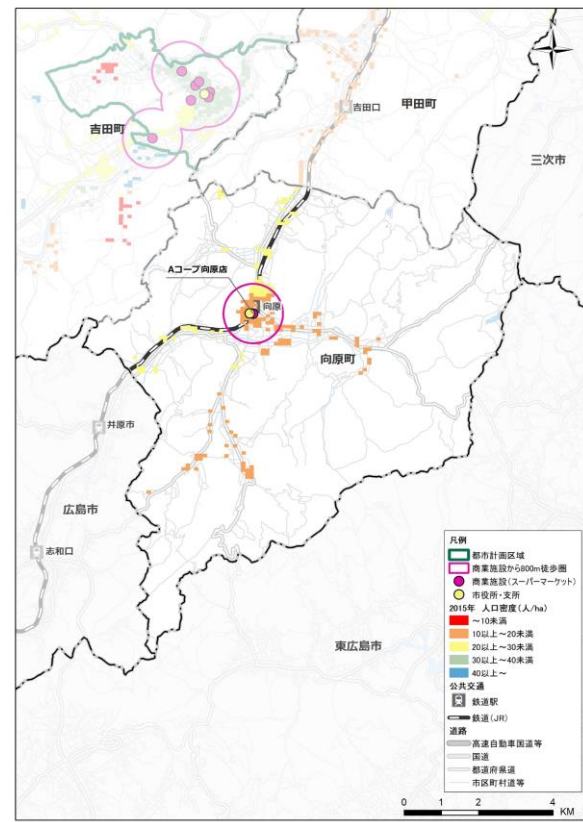
1. 向原町の現況（都市構造の評価）

○本市の商業施設の徒歩圏人口カバー率は**31.5%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較しても**低い**。

商業施設の徒歩圏人口カバー率



向原町拡大
→



全国平均より**17.5%**、
同規模都市より**6.5%**
低い

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
生活サービス（商業） 徒歩圏人口カバー率	31.5%	49.0%	77.0%	72.0%	62.0%	50.0%	38.0%

【算定式】
生活サービス（商業施設）徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データとタウンページのデータを使用し、商業施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

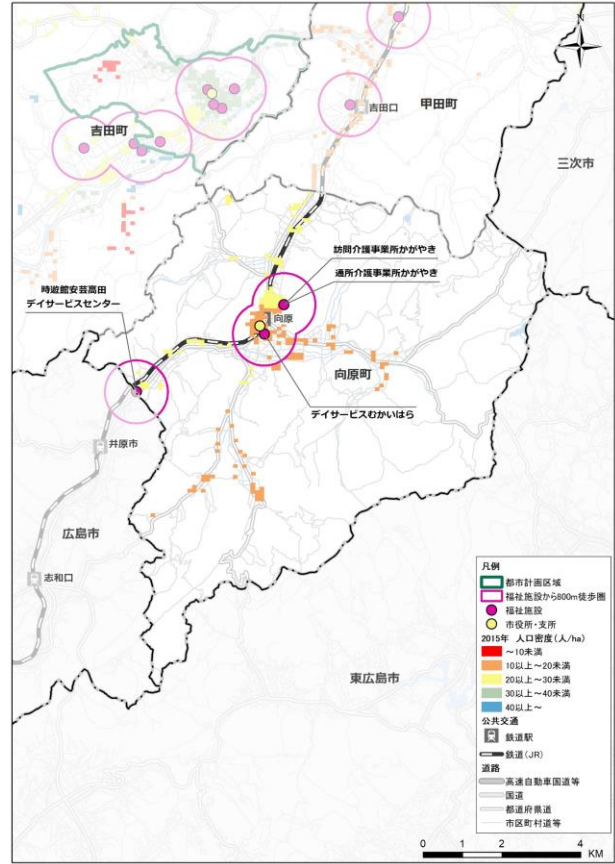
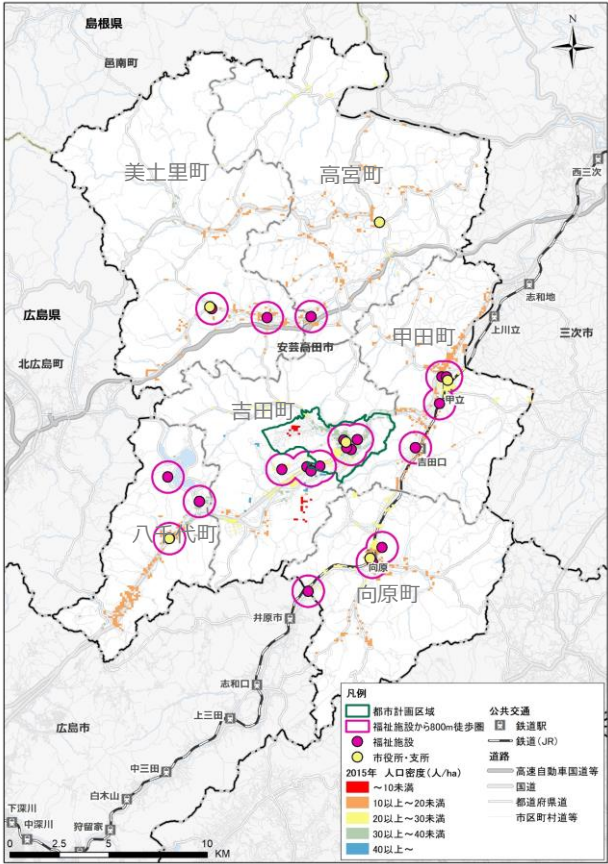
※商業施設…専門スーパー、総合スーパー、百貨店

出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 向原町の現況（都市構造の評価）

○本市の福祉施設の徒歩圏人口カバー率は**41.5%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較して**低い**。

福祉施設の徒歩圏人口カバー率



全国平均より**9.5%**、
同規模都市より**2.5%**
低い

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
生活サービス（福祉） 徒歩圏人口カバー率	41.5%	51.0%	76.0%	75.0%	69.0%	56.0%	44.0%

【算定式】
生活サービス（福祉施設）徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データを使用し、福祉施設から半径800mの圏域内人口を都市の総人口で除して算出。

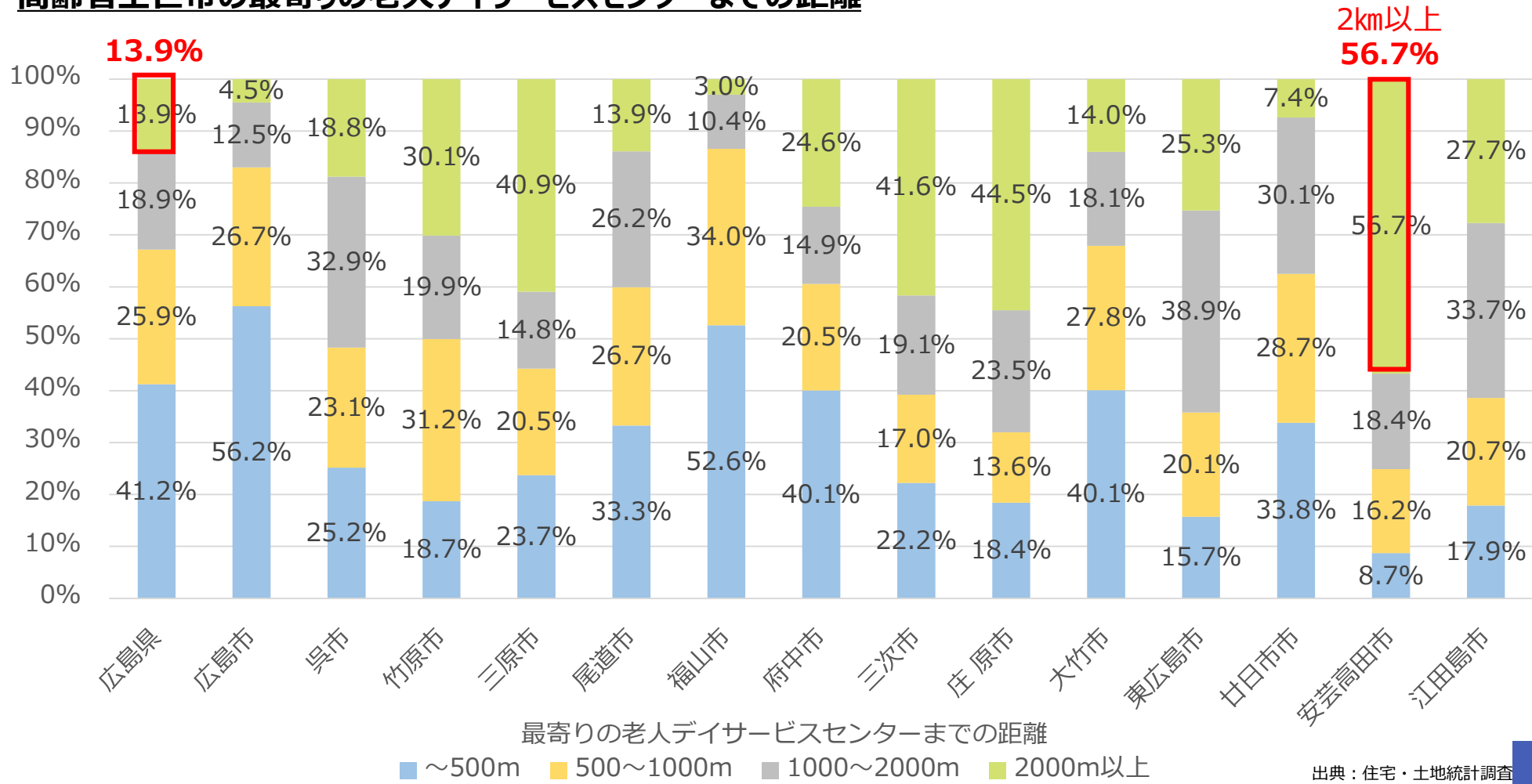
※福祉施設…通所系施設、訪問系施設、小規模多機能施設

出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 向原町の現況（都市構造の評価）

- 本市の高齢者主世帯の最寄りの老人デイサービスセンターまでの距離は、2km以上の割合が56.7%と高く、多くの高齢者が自宅から離れた老人デイサービスセンターを訪ねなければならない状況である。
- 一方、広島県全体では2km以上の割合が13.9%と低いことから、本市は県内の他市と比較して老人デイサービスセンターまでの距離が遠く、アクセス性に課題があるといえる。

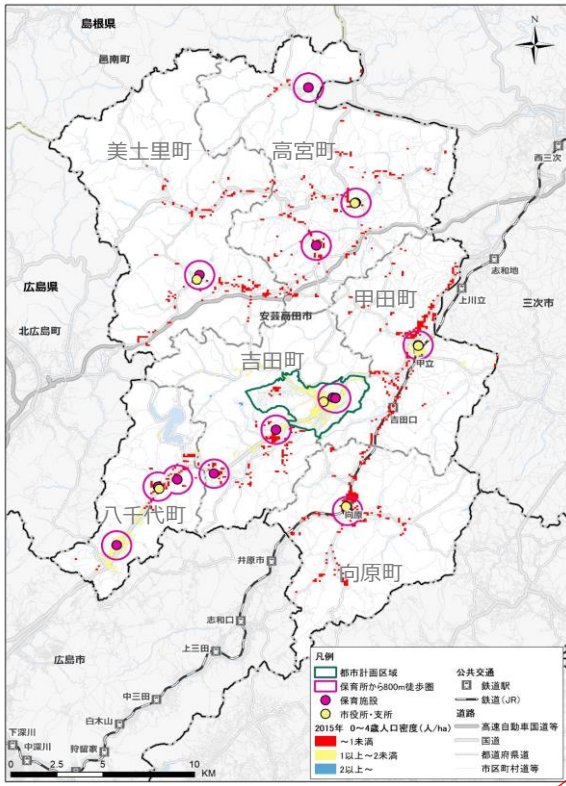
高齢者主世帯の最寄りの老人デイサービスセンターまでの距離



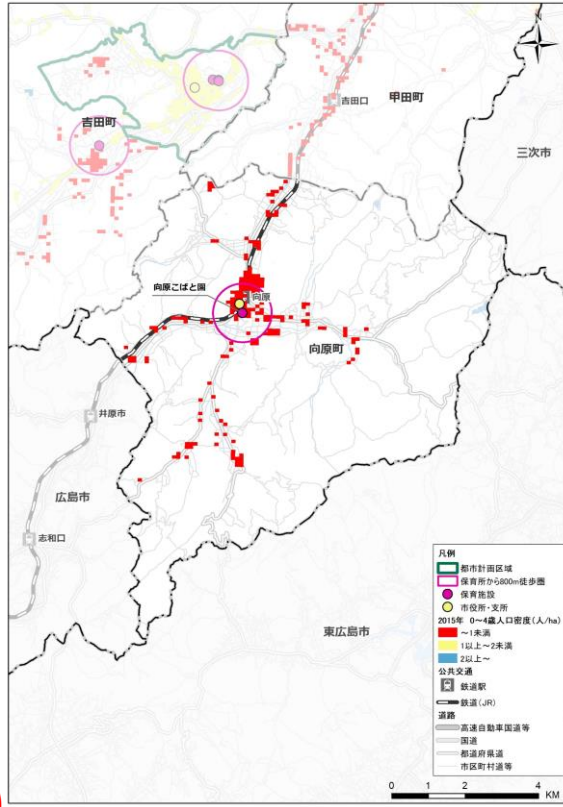
1. 向原町の現況（都市構造の評価）

○本市の保育施設の徒歩圏人口カバー率は**39.9%**であり、全国平均と比較して**低い**が、同規模都市のカバー率と比較して**高い**。

保育施設の徒歩圏人口カバー率



向原町拡大
➔



全国平均より**8.1%**低い
同規模都市より**2.9%**高い

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
保育所の徒歩圏 0~4歳人口カバー率	39.9%	48.0%	80.0%	70.0%	59.0%	52.0%	37.0%

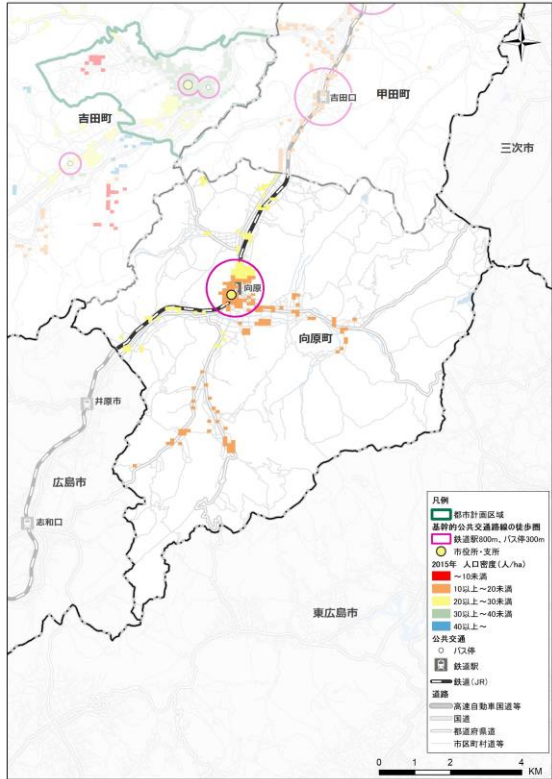
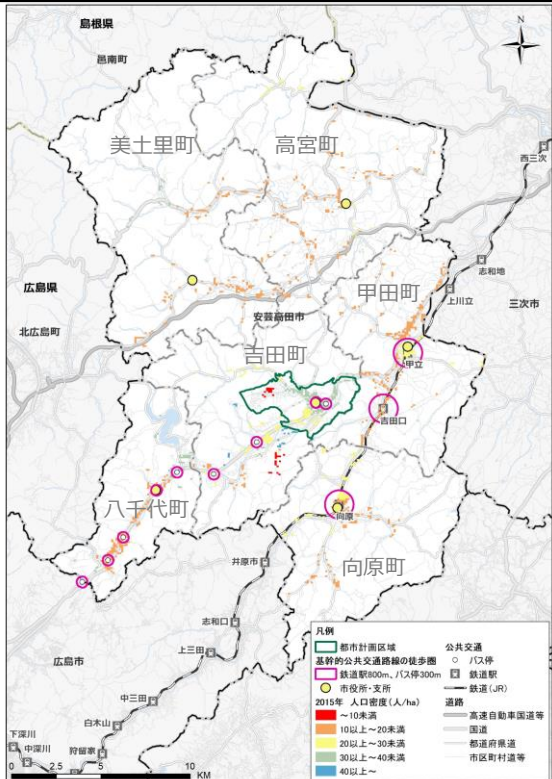
【算定式】
 保育所の徒歩圏0~4歳人口カバー率 = 安芸高田市提供データを使用し、保育所から半径800mの圏域内の0~4歳人口を都市の0~4歳人口で除して算出。

出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

1. 向原町の現況（都市構造の評価）

○本市の基幹的公共交通路線（片道30本/日以上での運行頻度（概ねピーク時片道3本以上に相当）の鉄道駅及びバス停。ただし、デマンド交通は含まない）の徒歩圏人口カバー率は**20.0%**であり、全国平均、同規模都市のカバー率と比較して**低い**。

基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率



全国平均より**21.0%**、
同規模都市より**11.0%**
低い

	安芸高田市	全国平均値	政令市	概ね50万人	概ね30万人	5~10万人	5万未満
基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率	20.0%	41.0%	74.0%	62.0%	48.0%	38.0%	31.0%

【算定式】
 基幹的公共交通路線の徒歩圏人口カバー率 = 安芸高田市提供データと国土数値情報（鉄道）を使用し、運行本数が片道30本/日以上（概ねピーク時片道3本以上に相当）のサービス水準を有する鉄道駅又はバス停の徒歩圏に居住する人口を都市の総数人口で除して算出。

※基幹的公共交通路線以外も含めた公共交通路線（ただし、デマンド交通を含まない）の徒歩圏人口カバー率は**67.0%**
 出典：国土交通省「都市構造の評価に関するハンドブック」

- 凡例
- 都市計画区域
 - 基幹的公共交通路線の徒歩圏
 - 鉄道駅800m、バス停300m
 - 市役所・支所
 - 2015年 人口密度(人/ha)
 - ~10未満
 - 10以上~20未満
 - 20以上~30未満
 - 30以上~40未満
 - 40以上~
 - 公共交通
 - バス停
 - 鉄道駅
 - 鉄道(JR)
 - 道路
 - 高速自動車国道等
 - 国道
 - 都道府県道
 - 市区町村道等

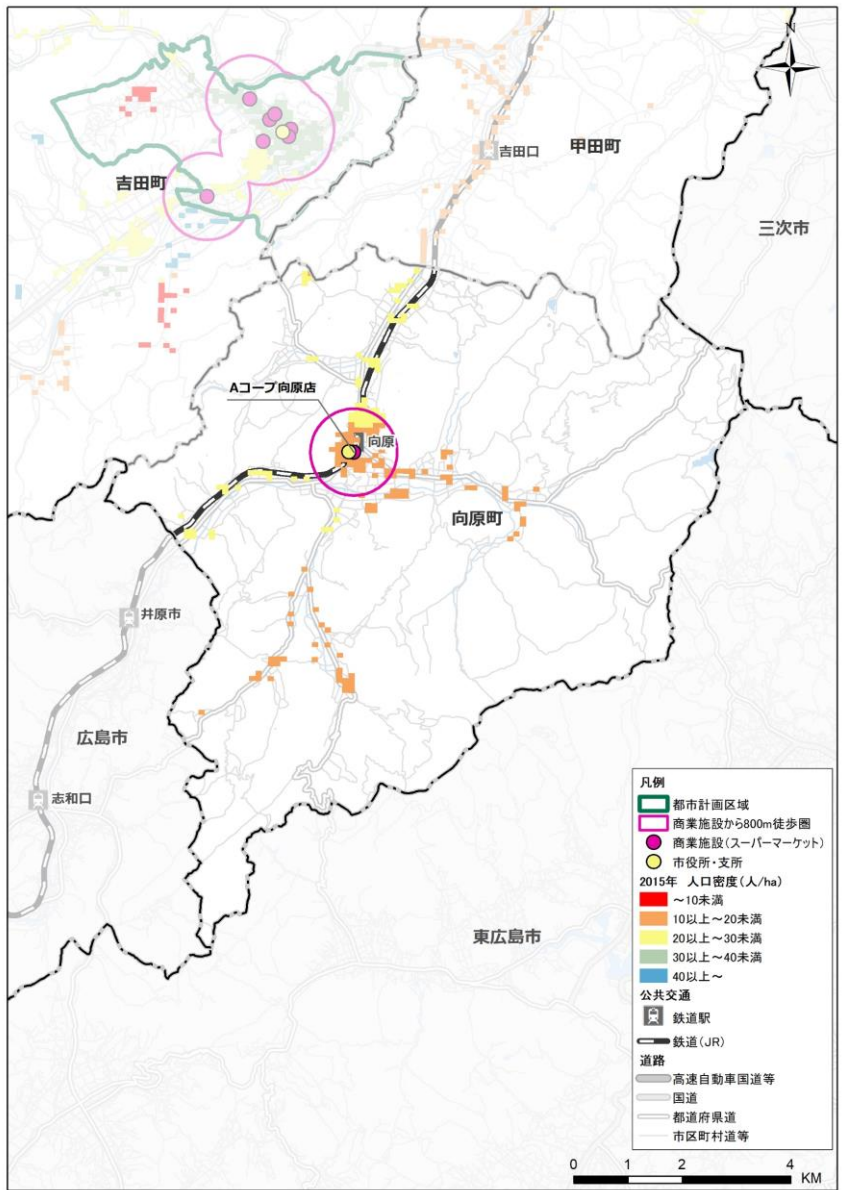
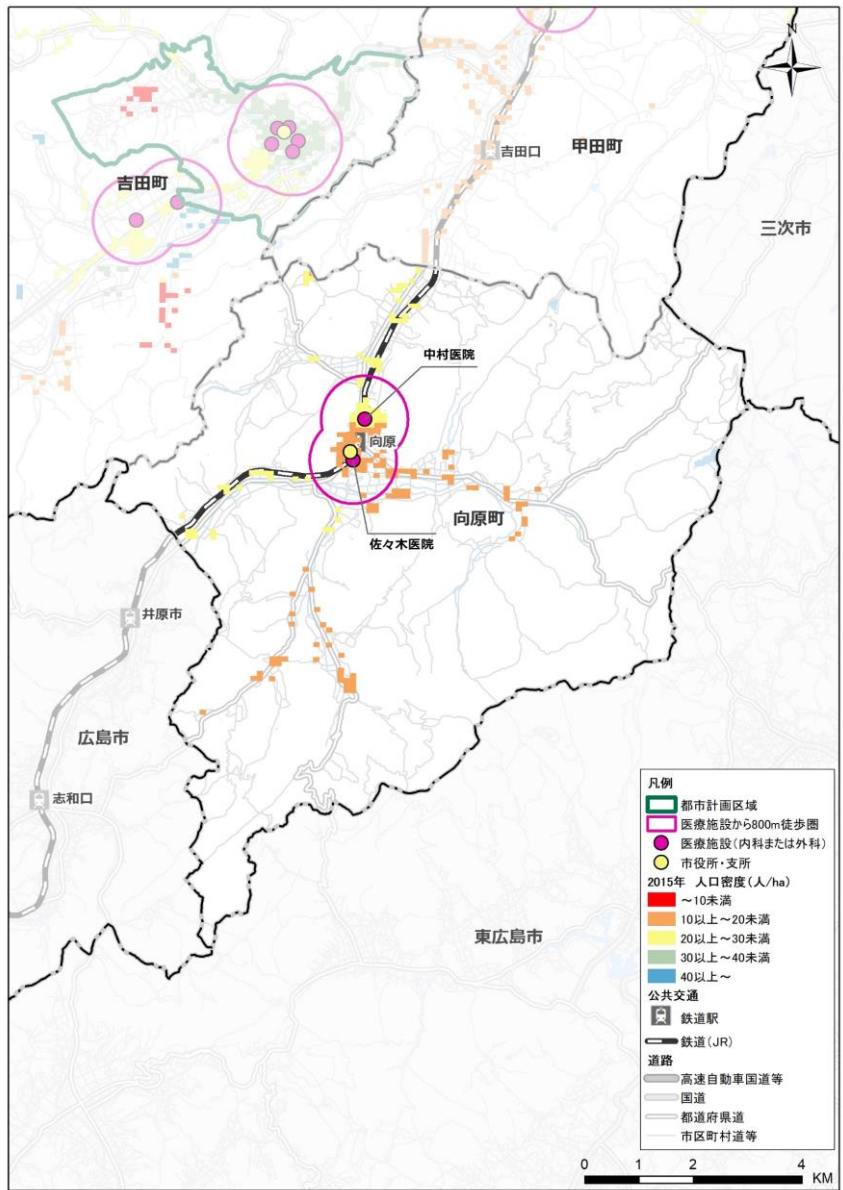
1. 向原町の現況 (都市構造の評価)

医療施設 (内科・外科)

2施設

商業施設

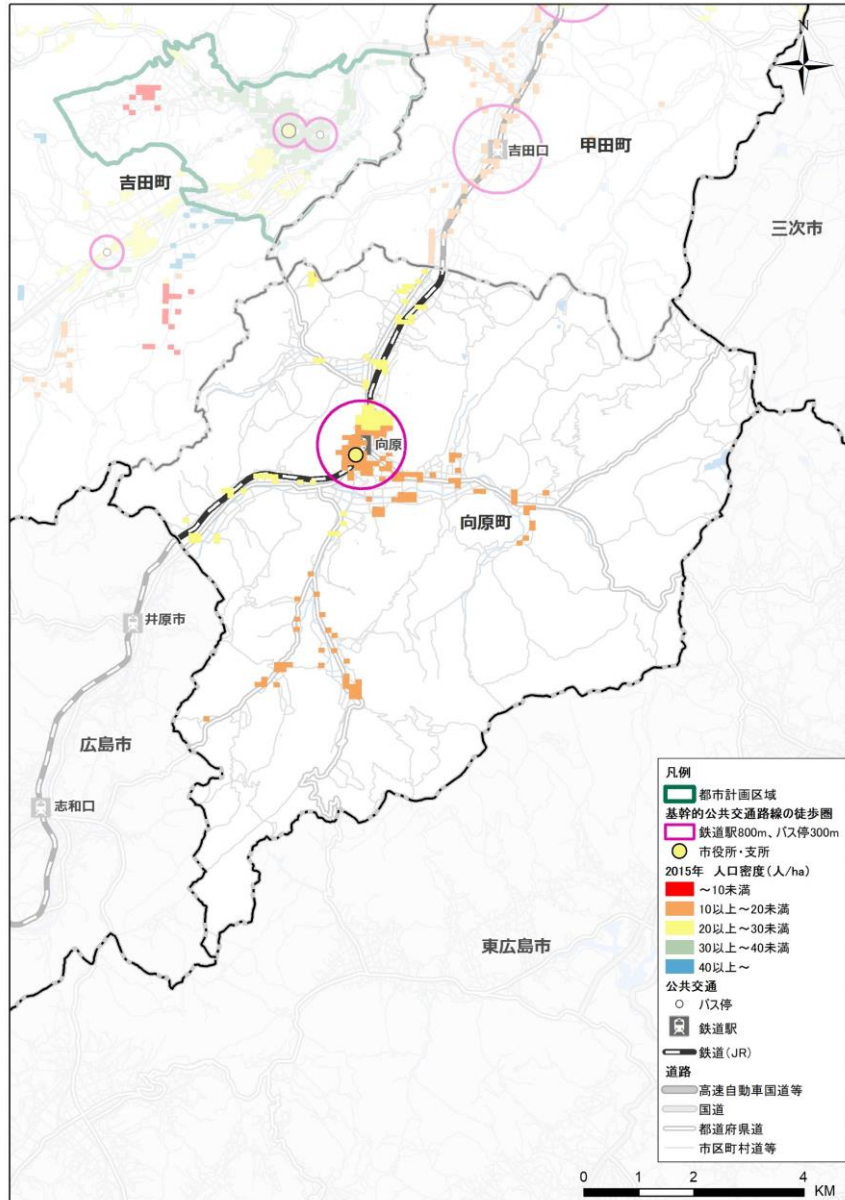
1施設



1. 向原町の現況（都市構造の評価）

基幹的公共交通路線

1施設



1. 向原町の現況（まとめ）

		地域の現状と問題点	町の強みと課題
町の現況	人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口は1990年から減少の一途をたどり、今後も減少見込みであるほか、高齢化率は40%以上で高止まりする見込みである。 ● 特に支所南西部のエリア（保垣地区）では、高齢化率55%以上のエリアも見られるほか、町全体で将来的に人口密度が低下する見込みである。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少や高齢化率の高止まりが見込まれる中、地域コミュニティの維持・強化や都市機能の維持に向け、コンパクトなまちづくりの推進が必要である。
	土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物用地や各種都市機能（行政、医療、商業、保育等）は、一部を除き向原支所の周辺に比較的集約されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市機能がコンパクトに集約された、住みやすい都市構造の維持が求められる。
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通機関として、JRや広域路線バスで広島市方面等へアクセスが可能であるほか、お太助バスやお太助ワゴンも利用可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。
	産業	<ul style="list-style-type: none"> ● 向原町内の主な観光地として、向原農村交流館やすらぎなどが挙げられるが、2017年と2019年の入込観光客数を比較すると、35%減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化に向け、町内の観光資源のPRが必要である。
	都市施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 1人当たりの下水道処理面積は市全体の平均値の2倍以上であり、町別処理面積は公共下水道が整備されている吉田町の次に大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共インフラを将来にわたって維持できるよう、効率的な維持管理のための施策検討が必要である。
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢人口密度の高いエリアの多くが、土砂災害警戒区域と重なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土砂災害リスク等を考慮し、高齢者をはじめとした住民が安心して暮らせる居住環境の構築および誘導が必要である。
	都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療施設（内科・外科）、商業施設、福祉施設の徒歩圏人口カバー率が全国平均・同規模都市と比較して低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設の適正配置により、施設を訪れやすい環境の整備が必要である。 <p>※黄色ハッチは市全体の現状・課題</p>

2. 市民アンケート調査（調査概要）

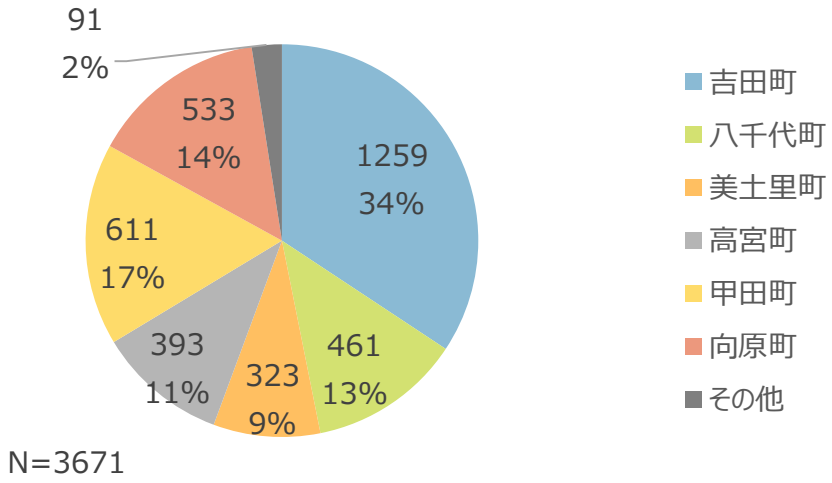
○都市計画マスタープラン・立地適正化計画の策定において、市民意向を十分に反映することを目的として、市内全世帯を対象とした市民アンケート調査を実施。

対象	安芸高田市内に居住する全世帯
実施期間	2021（令和3）年12月3日～12月20日
方法	紙面：市内全世帯に対して調査票を1部ずつ配布 web：調査票表紙にweb上でのアンケートフォームへのURLを掲載（世帯内で複数人回答可）
回収数	3,750票（3,709世帯）
内容	<ul style="list-style-type: none">■回答者の属性 居住地（郵便番号）、性別、年齢、職業、家族構成 運転免許証の有無、運転頻度、免許返納意思■日常生活について 目的別の外出先・移動手段、自宅周辺／拠点地区に欠かせないと考える施設の種類 新型コロナウイルスの感染拡大による行動変化■お住まいについて 住居形態、住居および周辺の環境への満足度 望ましい居住環境の条件、今後の現住居への居住継続意思■これからのまちづくりについて 日常生活において影響が生じると困ること、コンパクトなまちづくりを進める上で重視すべき点 まちづくりへの参加意欲、進めるべきと考えるまちづくり方針■自由意見

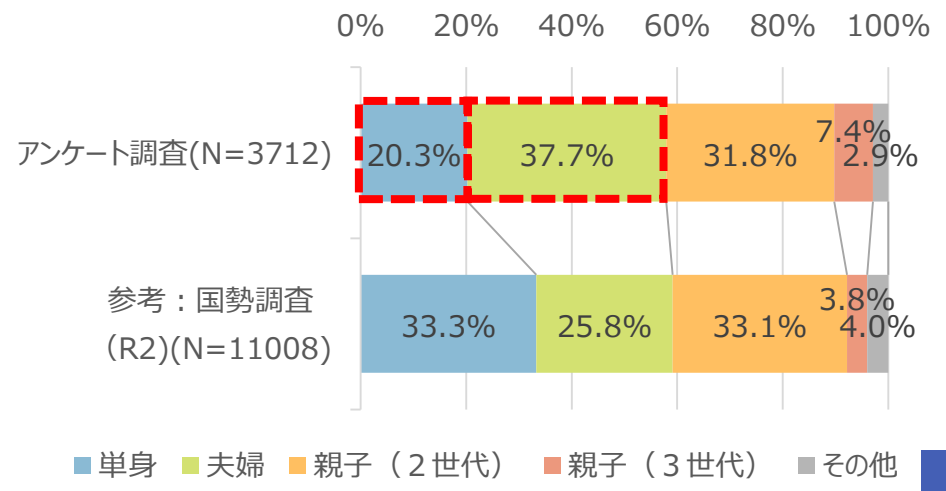
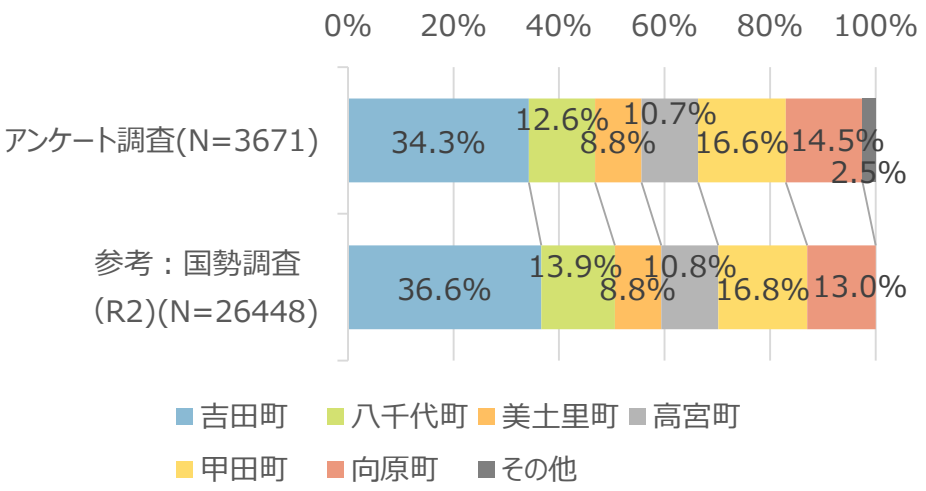
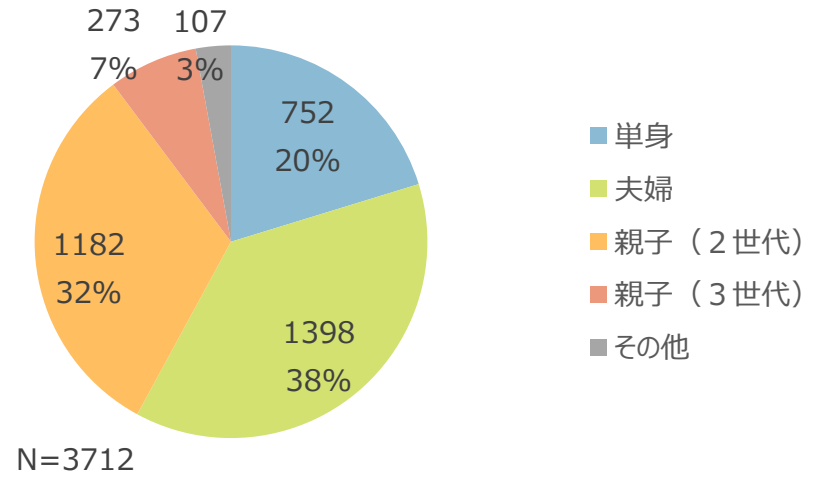
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

- 回答者の属性について、居住地は市全体の人口分布と概ね同様の傾向にある。
- 一方、家族（世帯）構成については、単身者の割合が実際より低く、夫婦の割合が高い。

【居住地】



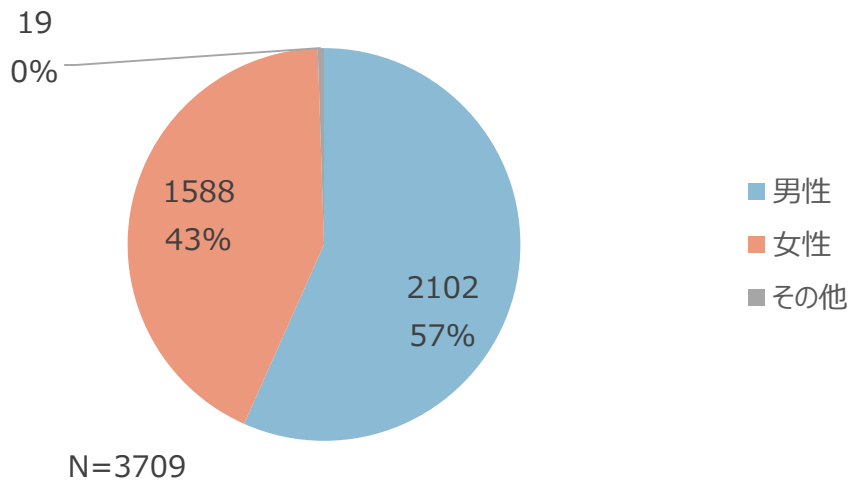
【家族（世帯）構成】



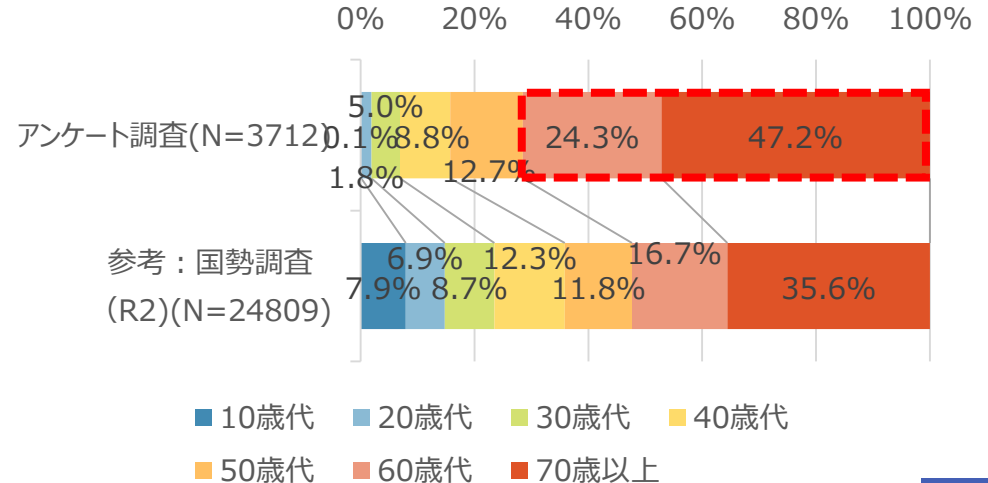
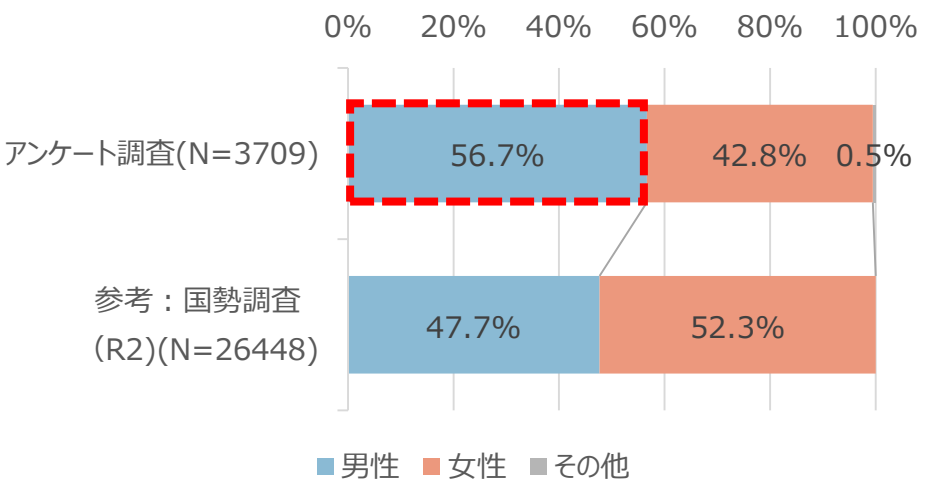
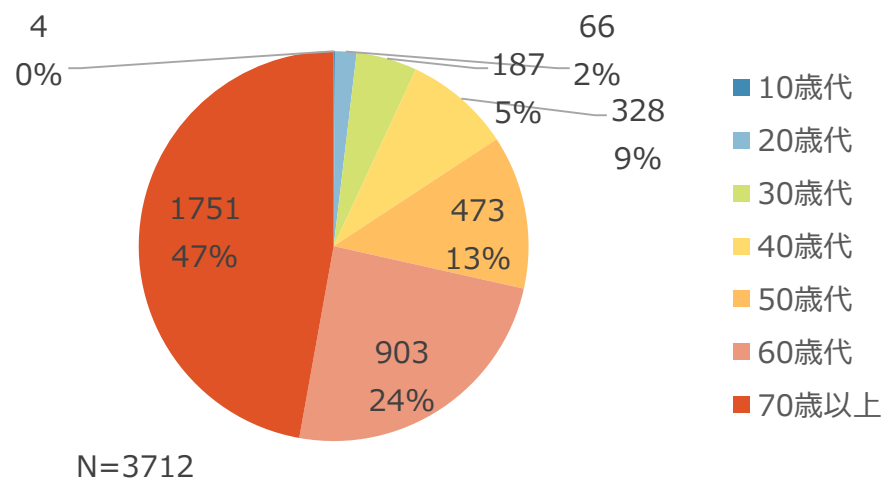
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○また、市全体の人口比に対して男性の回答率が約10ポイント高いほか、29歳以下の回答率が低く60歳以上の回答率が高いなど、一部実際の人口構成と異なる部分がある。

【性別】



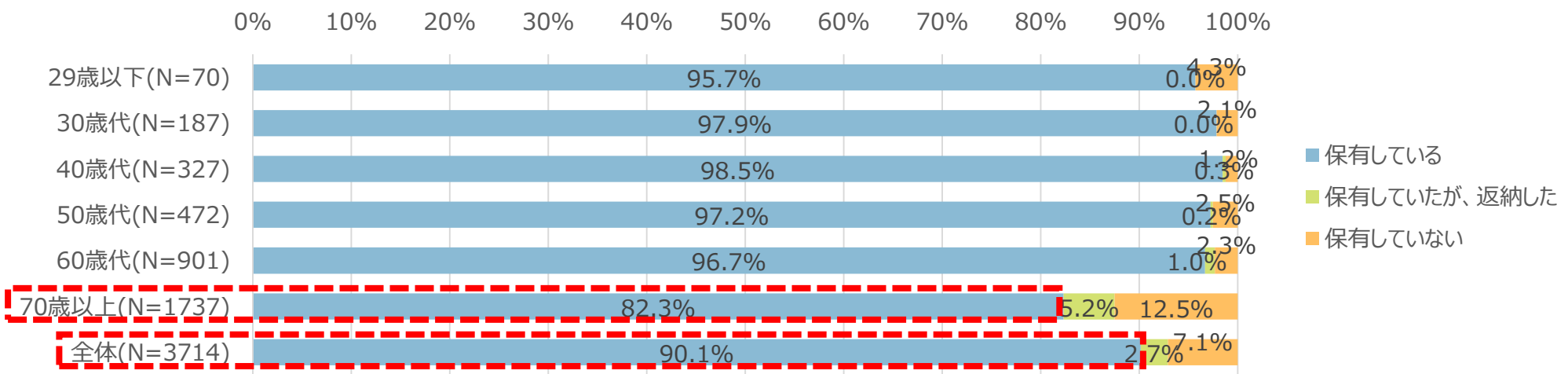
【年齢】



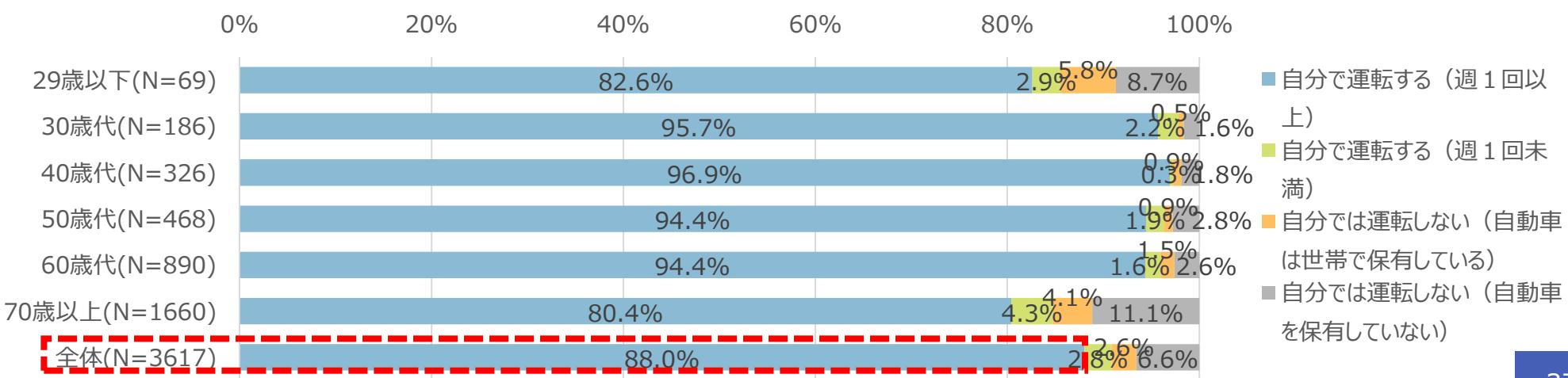
2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

- 回答者の約9割が運転免許を保有しており、週に1回以上自分で運転している。
- 特に、70歳以上であっても、8割以上が運転免許を保有しており、週に1回以上自分で運転している。

【運転免許の保有有無】



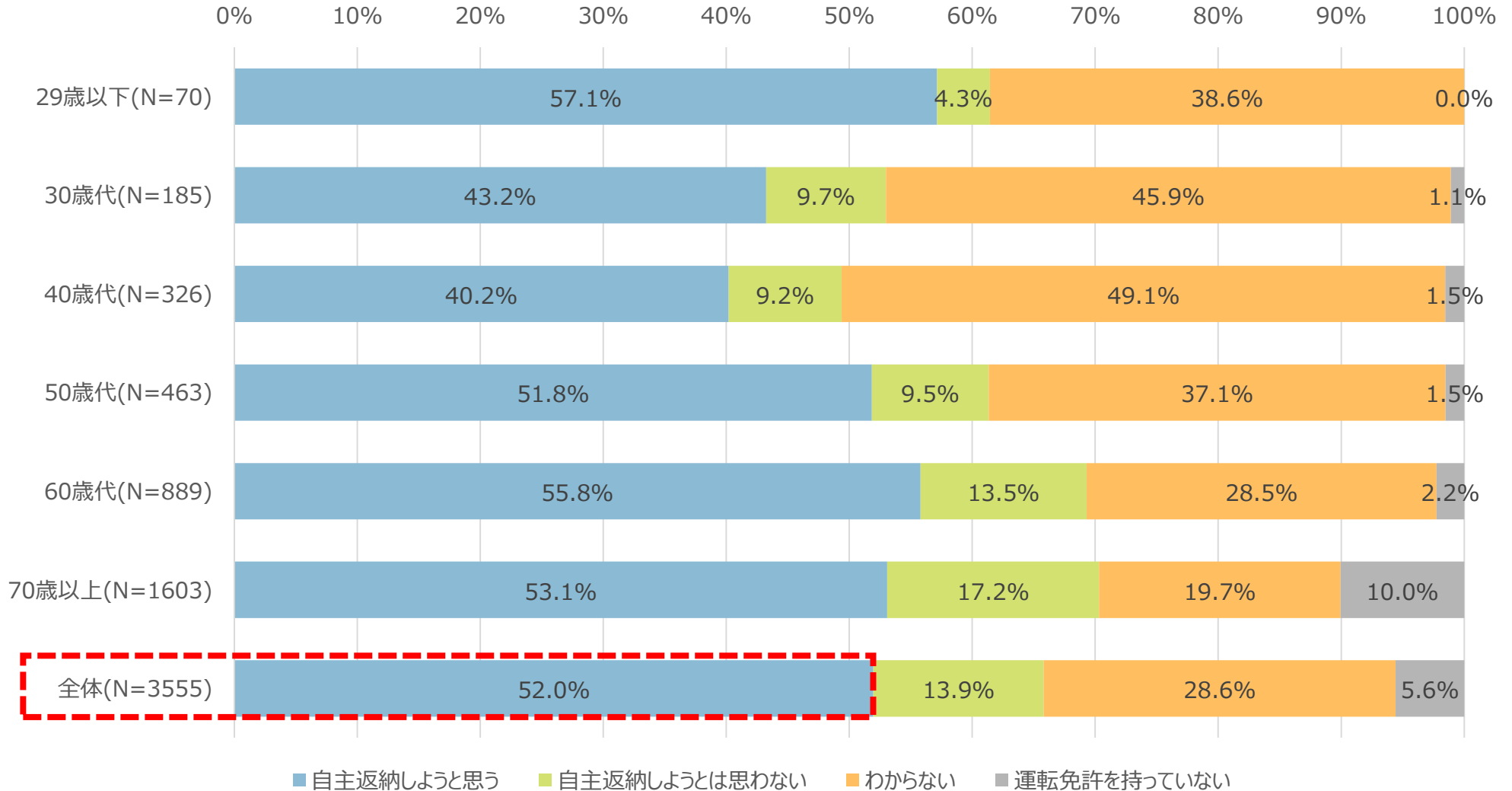
【運転頻度】



2. 市民アンケート調査（調査結果①：回答者の属性）

○車の運転が困難となった場合、回答者の半数以上は免許を自主返納すつもりであると回答している。

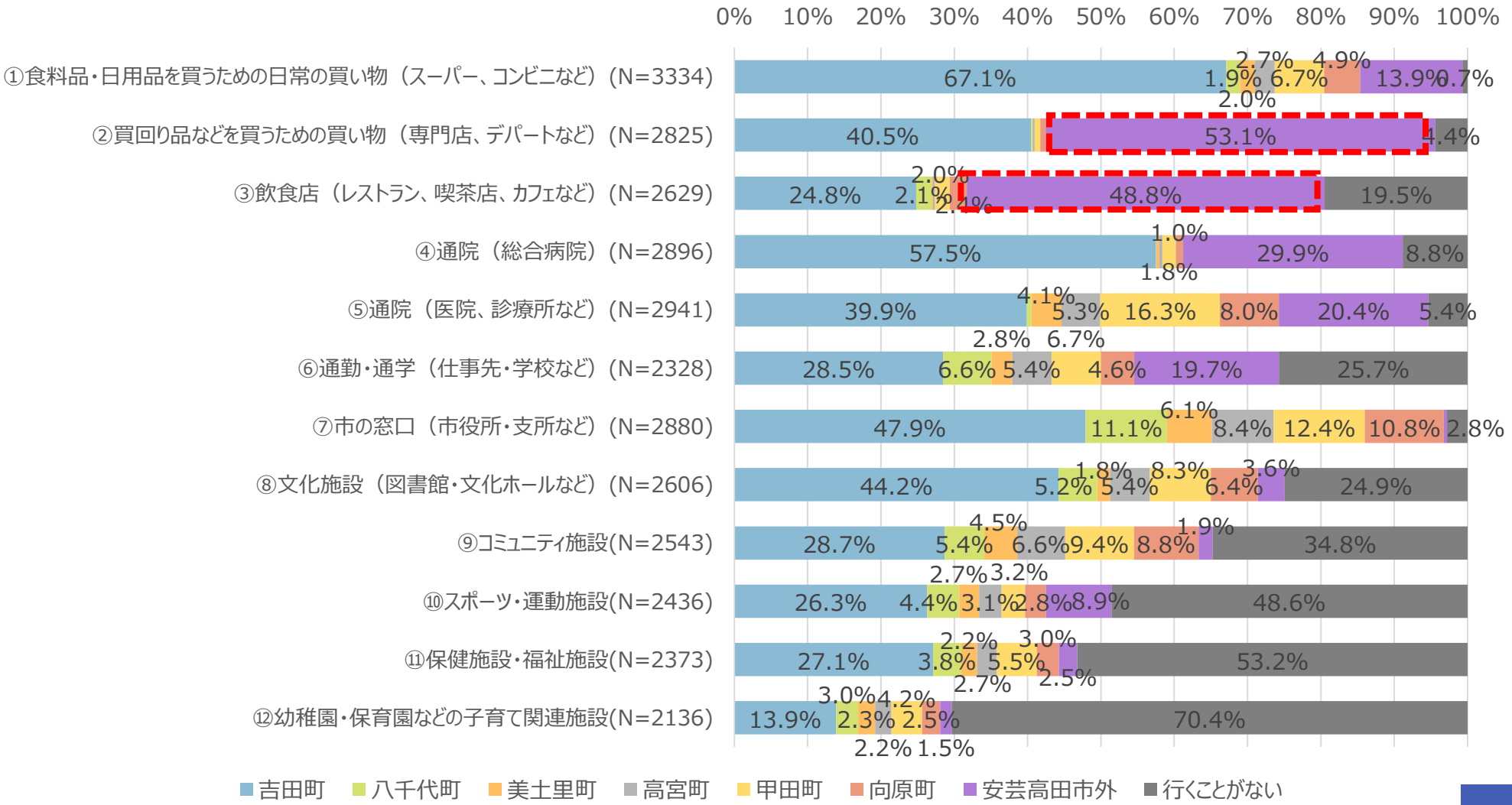
【免許返納意思（車の運転が困難となった場合）】



2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○ 日常的な行動は吉田町を主に市内で完結している割合が高いが、買回り品の購入や飲食店の利用時などは市外まで出かける人の割合が高い。

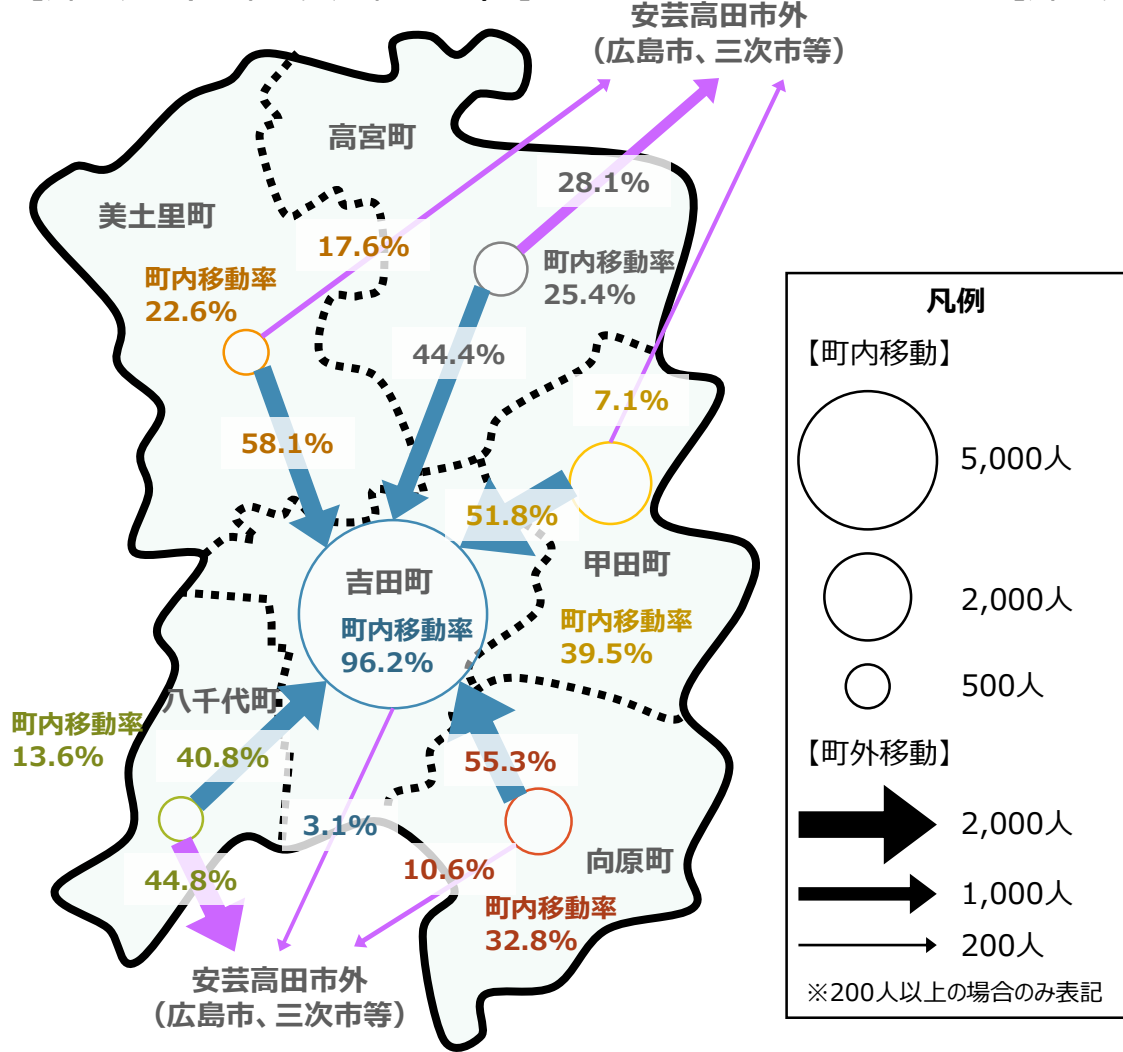
【外出先（市全体）】



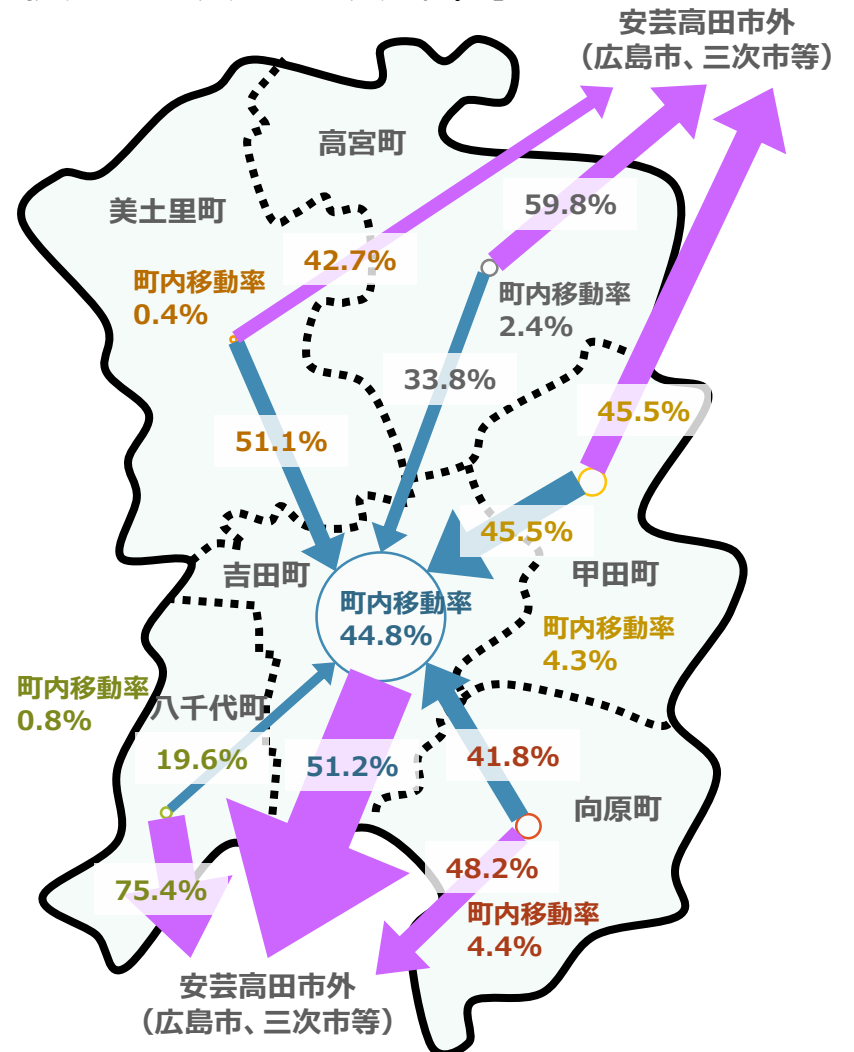
2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

- 目的別にODを整理すると、向原町居住者は日常の買い物でも約6割が吉田町の施設を利用している。
- 買回り品の買い物では、約5割が市外の施設を利用している。

【外出先（日常の買い物目的）】



【外出先（買回り品を買うための買い物）】



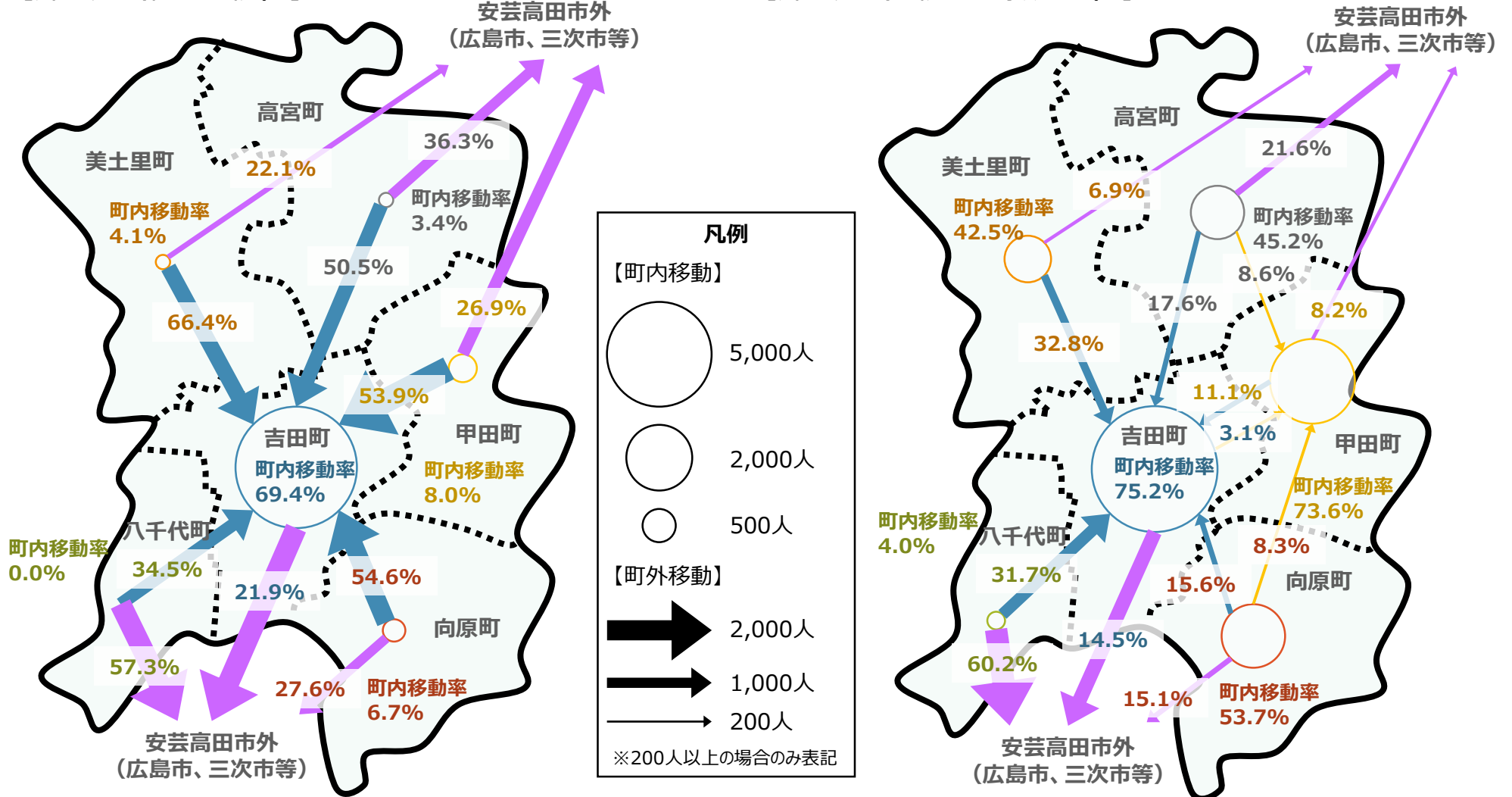
※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

- 通院目的での移動では、総合病院について向原町居住者の約5割が吉田町の施設を利用している。
- 医院、診療所などは約5割が町内の施設を利用しており、吉田町や甲田町、市外の施設利用者もみられる。

【外出先（総合病院）】

【外出先（医院、診療所など）】



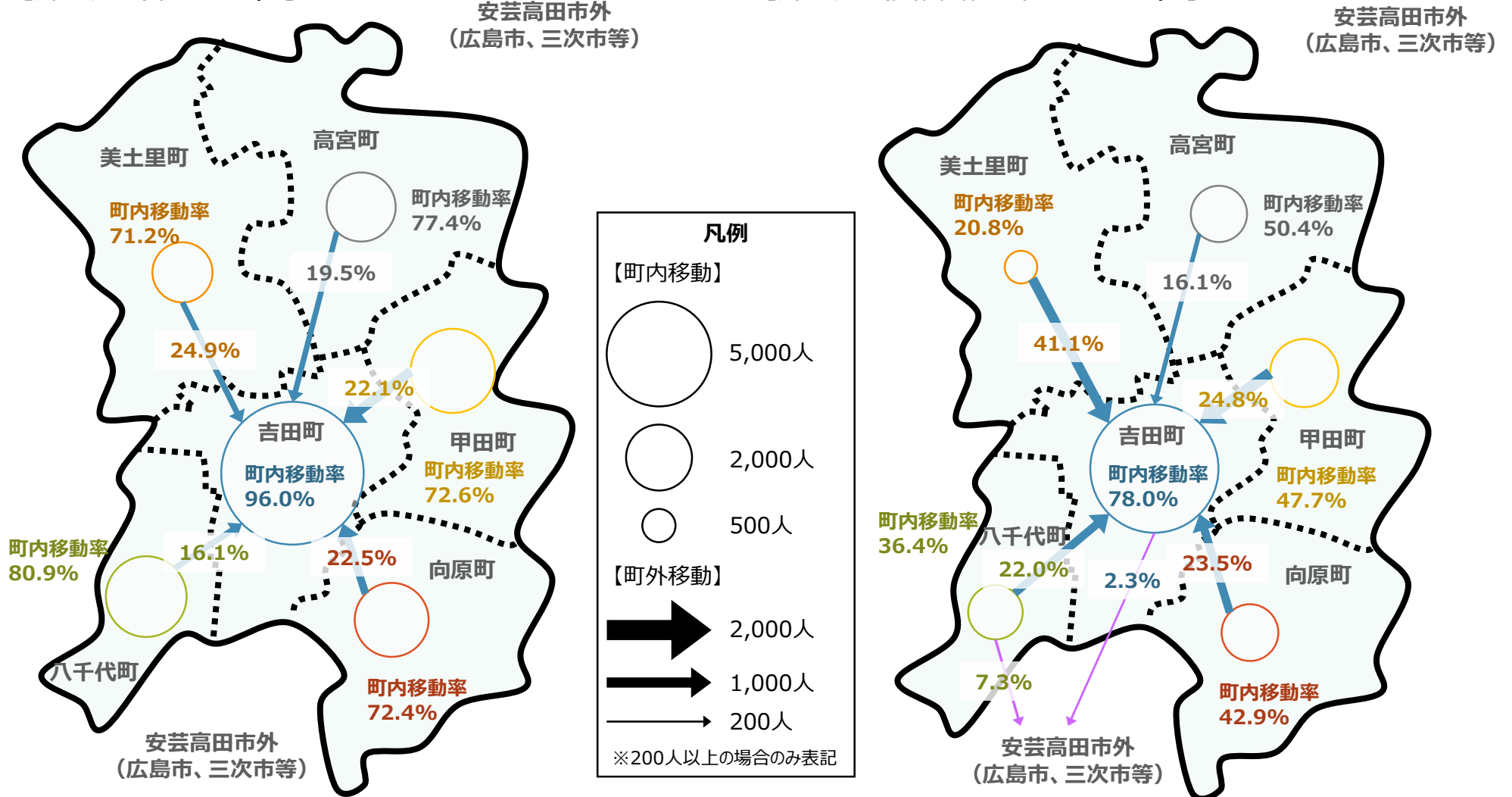
※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○市の窓口については、町内の支所を利用する人が多い一方、同様に各町に整備されている図書館・文化ホールなどについては、向原町内の施設利用率は約4割にとどまっており、約2割は吉田町の施設を利用している。

【外出先（市の窓口）】

【外出先（図書館・文化ホールなど）】



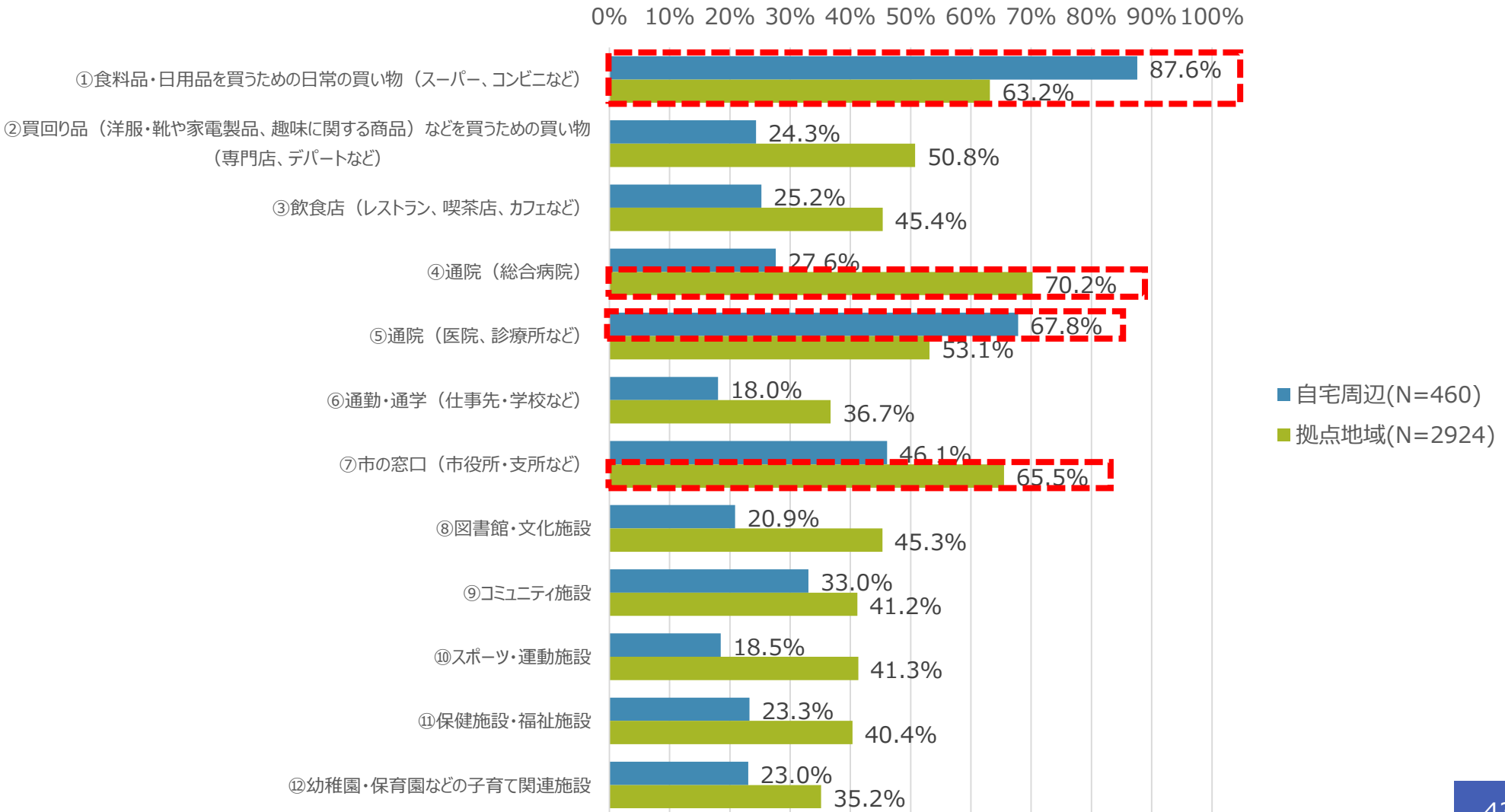
※人数は、アンケート調査の選択肢別の回答率（未回答を除く）を旧6町別に集計し、2020年時点の人口（国勢調査）で拡大処理を行い算出している。
 ※移動率の分母には、「行くことがない」との回答を含む。

2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

- 自宅周辺に欠かせない施設としては、スーパー・コンビニや日常的な通院施設を挙げる人が多い。
- 拠点地域に欠かせない施設としては、スーパー・コンビニのほか、総合病院や市の窓口などを挙げる人が多い。

【自宅周辺・拠点地域に欠かせない施設】

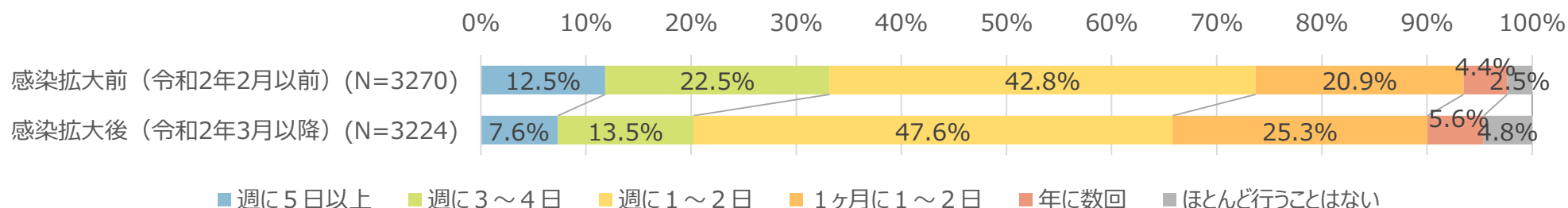
※「自宅周辺」については、向原町居住者の回答を抽出



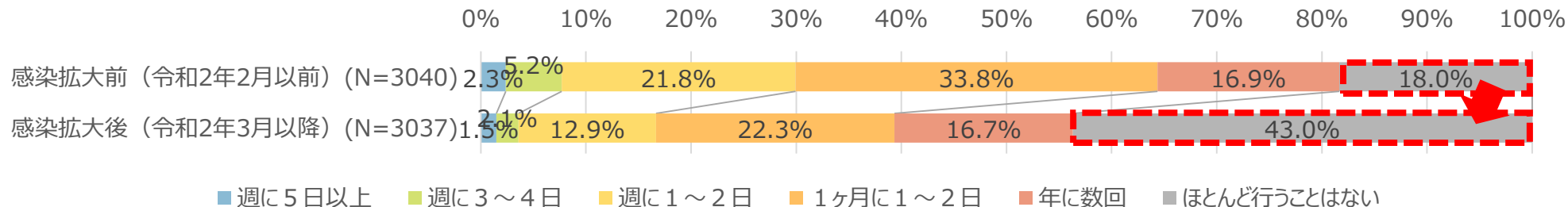
2. 市民アンケート調査（調査結果②：日常生活について）

○コロナ禍による外出行動への影響として、特に趣味・娯楽目的や、地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度が低下しており、「ほとんど行くことはない」と回答した人の割合が2倍以上となっている。

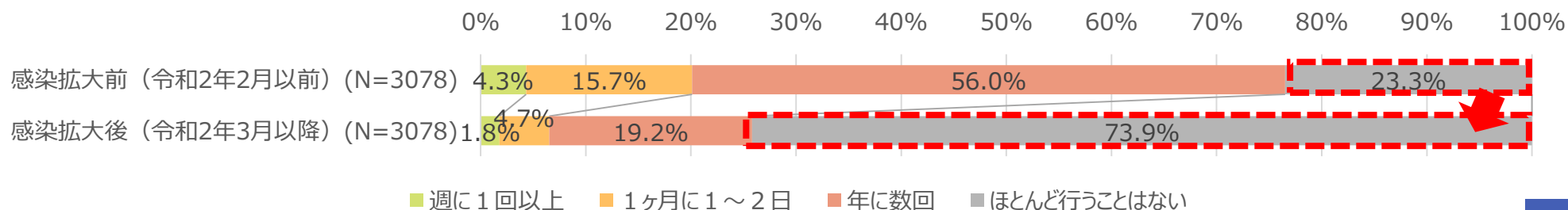
【通院・買い物等での外出頻度の変化】



【趣味・娯楽目的での外出頻度の変化】



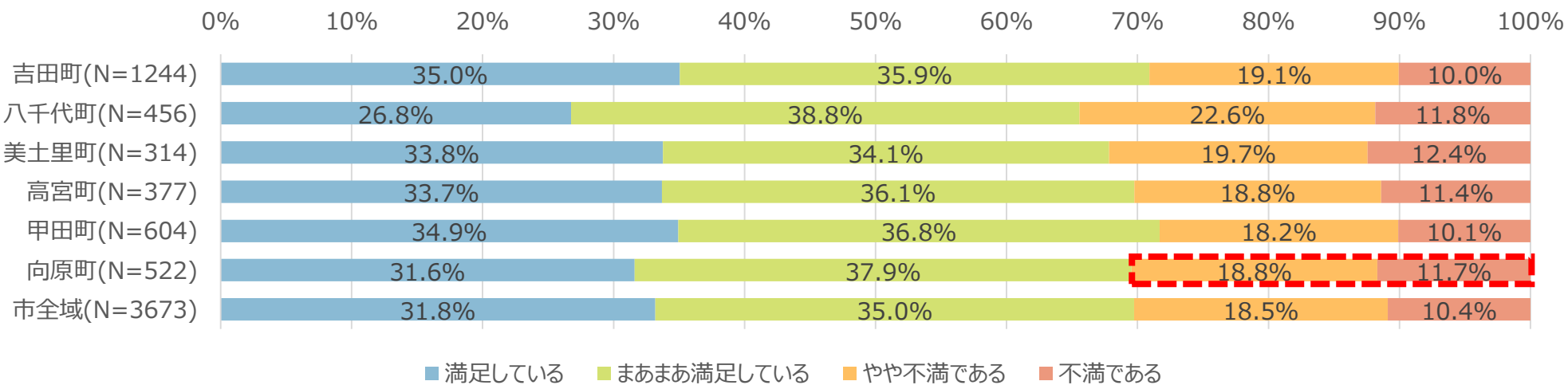
【地域のイベント（自治会の会合やお祭りなど）での外出頻度の変化】



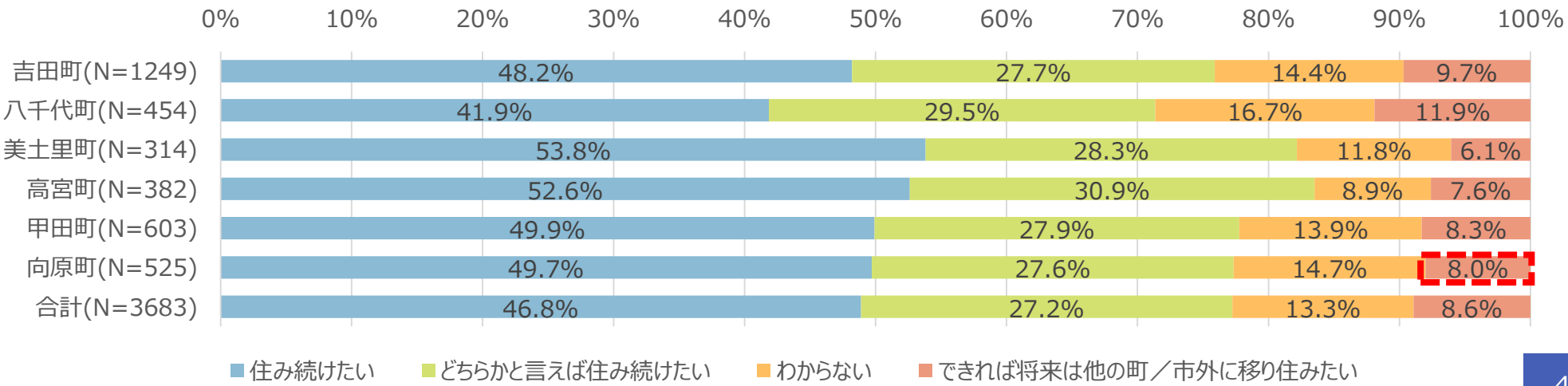
2. 市民アンケート調査（調査結果③：お住まいについて）

- 向原町内で約3割の住民が居住環境に「不満である」または「やや不満である」と回答している。
- また、町内で約1割の住民が「できれば将来は他の町／市外に移り住みたい」と回答している。

【居住環境への満足度】



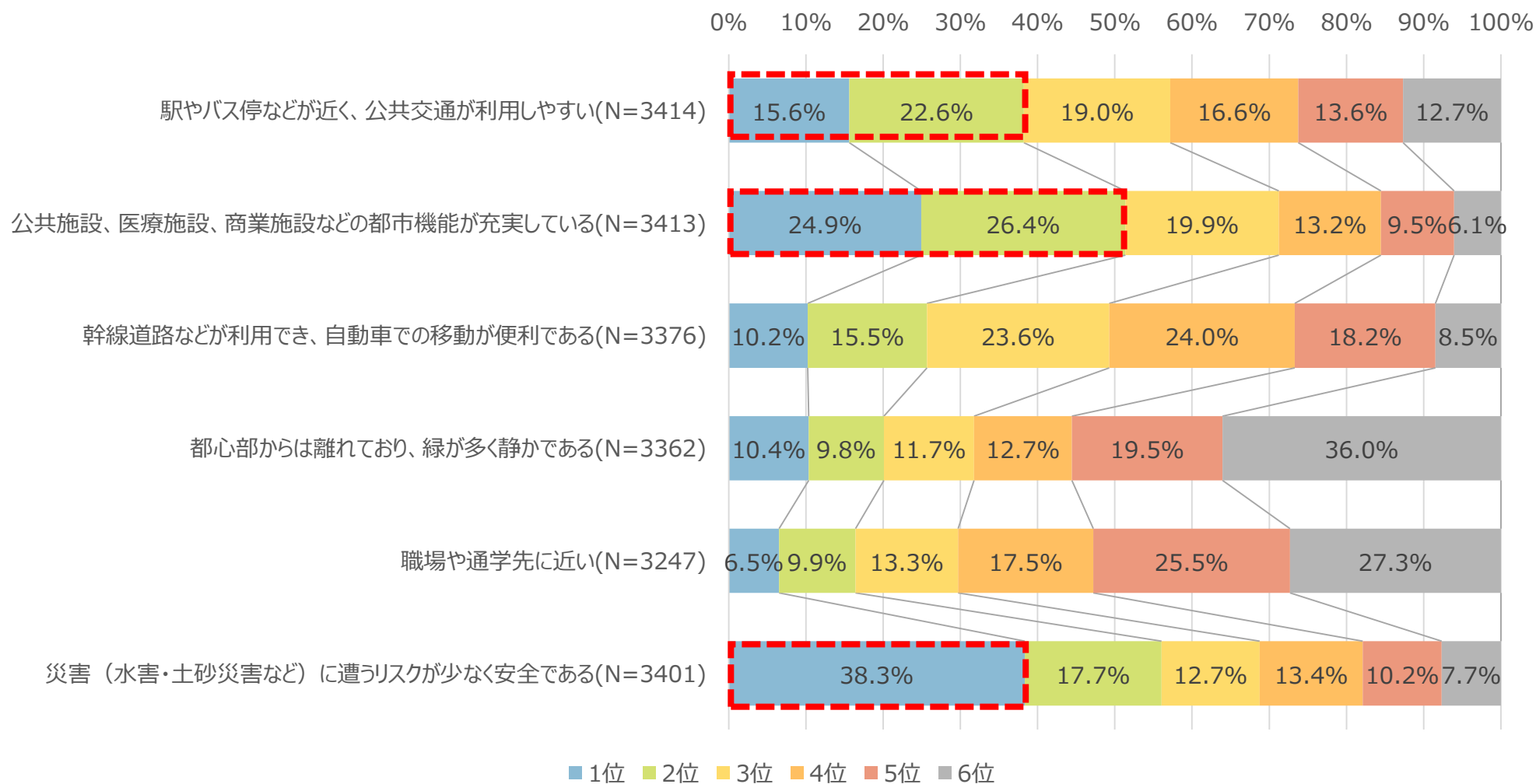
【将来的に住み続けたいかどうか】



2. 市民アンケート調査（調査結果③：お住まいについて）

○居住環境に求めることとして、回答者の約4割が災害リスクの少なさを1位に挙げており、次いで都市機能の充実や公共交通での利便性を重視する人が多い。

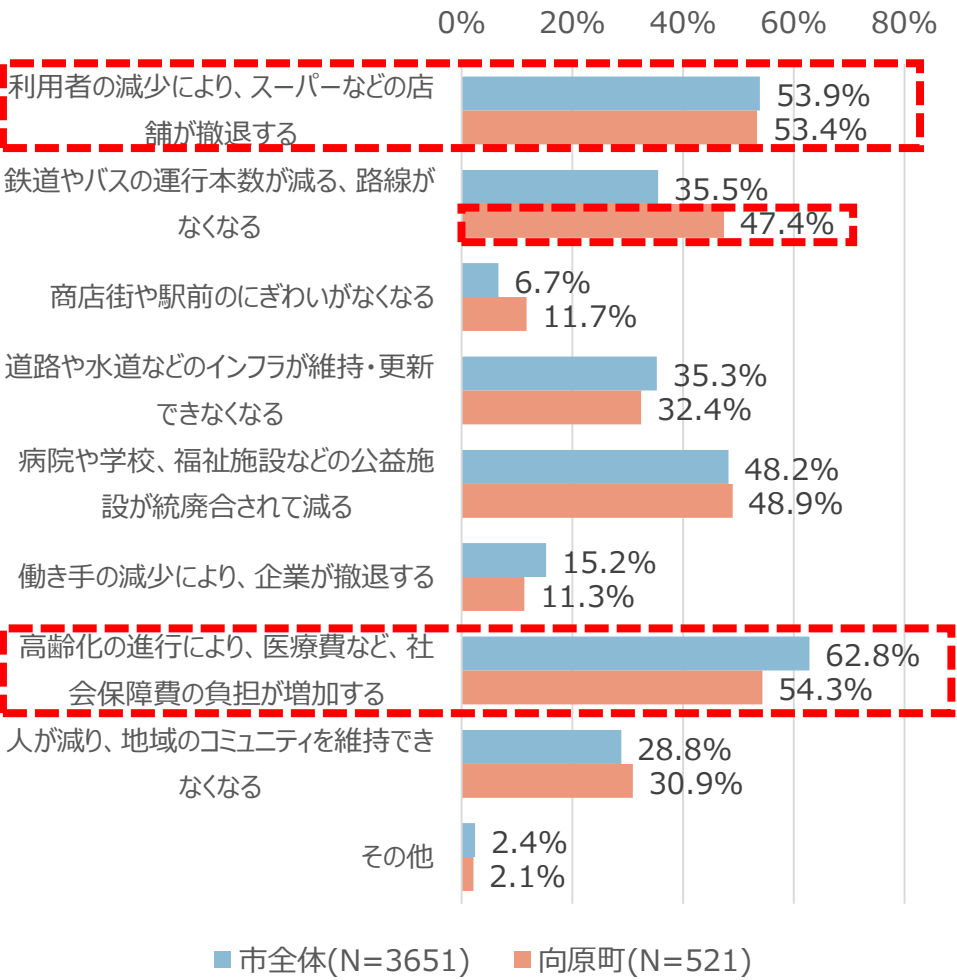
【望ましいと考える居住地の条件】



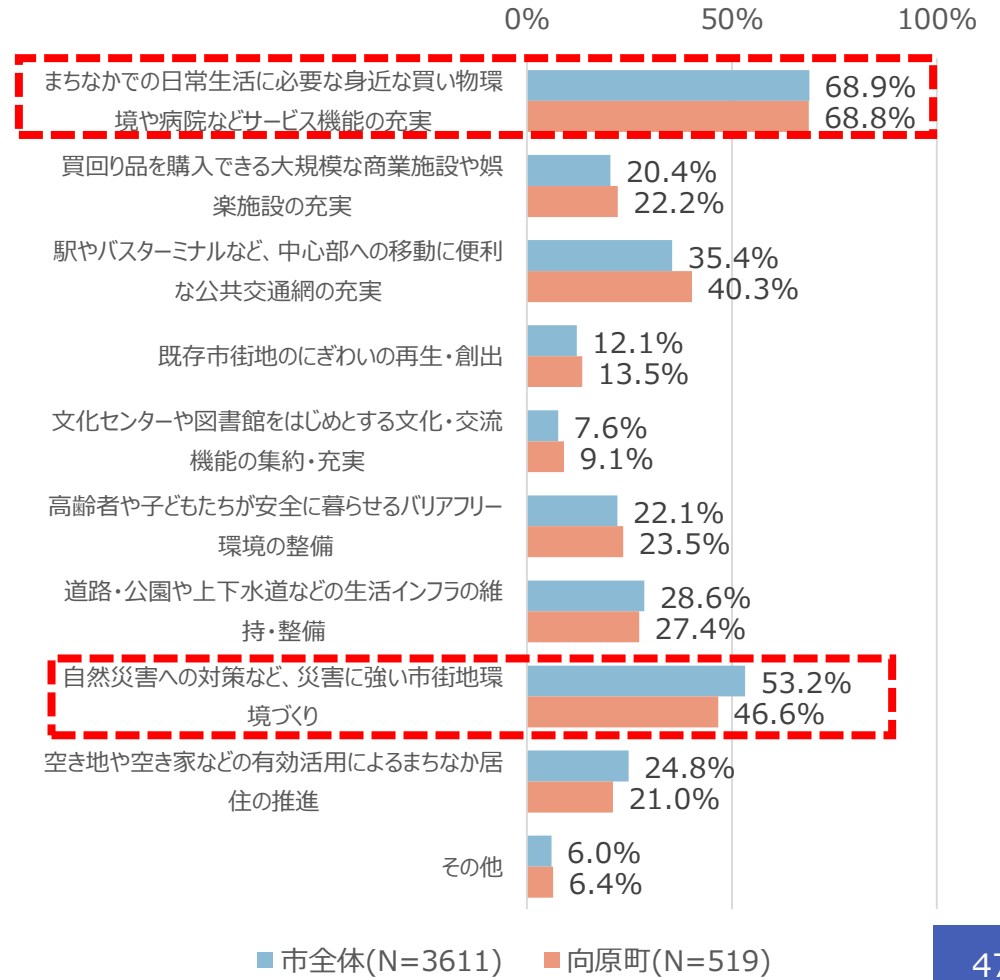
2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

- 人口減少・少子高齢化による影響として、5割以上が社会保障費の負担増や店舗の撤退を懸念しており、特に向原町では公共交通の利便性低下を懸念する割合が他の町より高い。
- コンパクトなまちづくりを進めるにあたり、生活サービス機能の充実や災害対策を重視していくべきと考える人が多い。

【影響が生じると困ること】



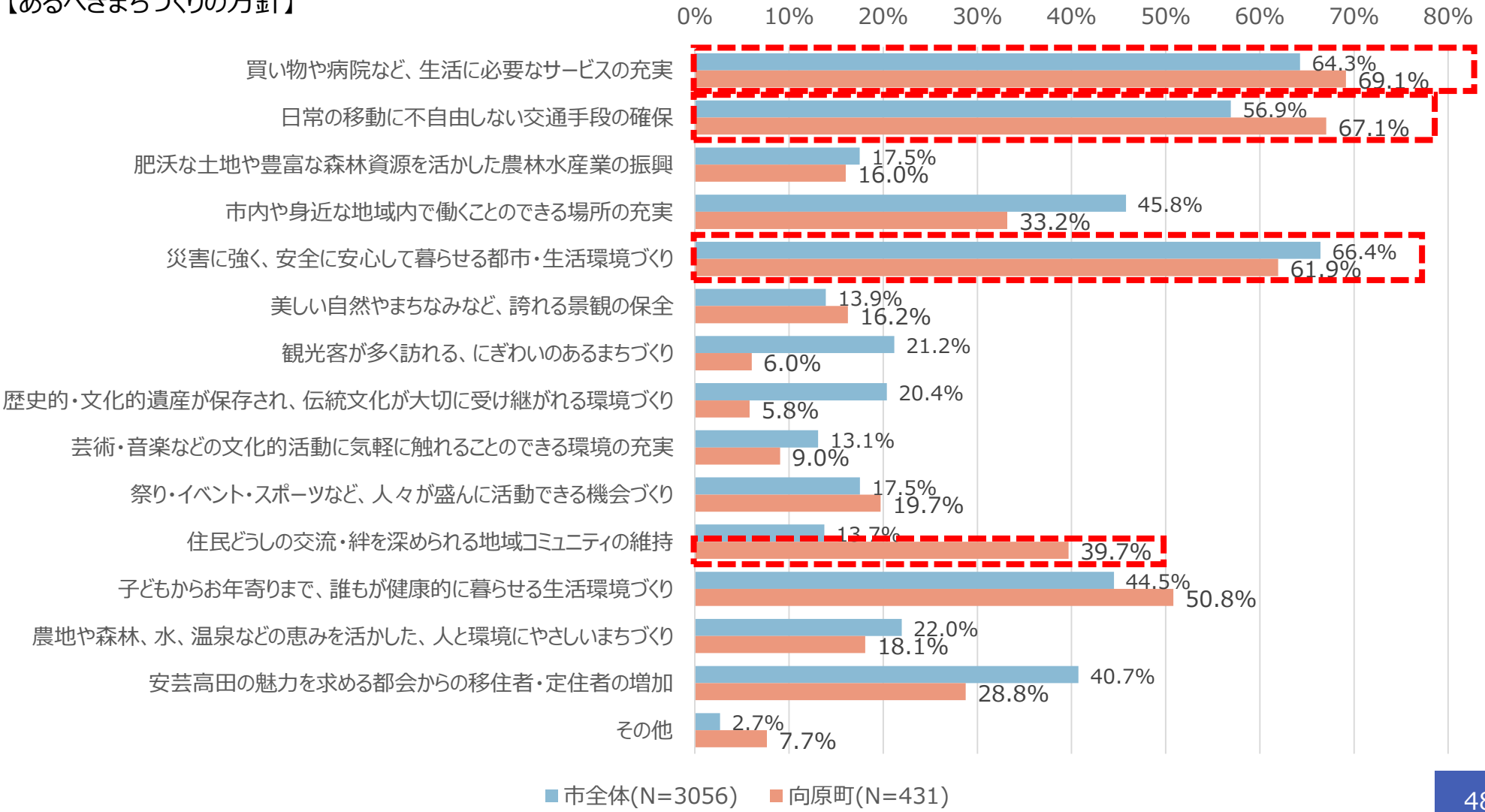
【コンパクトなまちづくりを進めるにあたり重視していくべきこと】



2. 市民アンケート調査（調査結果④：これからのまちづくりについて）

- 今後のあるべきまちづくりの方針として、生活に必要なサービスの充実や、災害に強く安全に安心して暮らせる生活環境づくり、交通手段の確保等を重視する人が多い。
- 特に向原町では、地域コミュニティ維持を重視する割合が市全体に比べて高い。

【あるべきまちづくりの方針】



2. 市民アンケート調査（まとめ）

市民アンケート調査

生活行動

住民意向

地域の現状と問題点

- 買い物・通院等の多くの移動需要が、吉田町内や市外の施設に依存している。
- 日常的な医療需要の一部は、甲田町内でも賄われている。

- 人口減少・少子高齢化により影響が生じると困ることとして、公共交通の利便性低下を懸念する住民が他の町に比べて多い。



町の強みと課題

- 日常生活に必要な都市施設の充実や、市内外の都市施設を利用するためのアクセス環境の持続的な確保が必要である。

- 立地条件を活かし、市内外への良好なアクセス環境を維持・充実させることが求められる。